

**最終更新日：2024年7月8日**

相愛大学では、教育職員免許法施行規則第22条の6に基づいて、教員の養成に係る教育の質の向上や社会に対する説明責任を果たすため、『教職課程に関する情報』を公表しています。

### **教職課程に関する情報公開**

1. 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること
2. 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること
3. 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること
4. 卒業者の教員免許状の取得の状況に関すること
5. 卒業者の教員への就職の状況に関すること
6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

## **1. 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること**

### **① 教員の養成の目標**

本学の建学の精神は、大学名の由来である大乘仏典の一語「當相敬愛」です。この語は、今日要請されている教育思想の根幹となる「共生」「利他」の基本とも通底する精神であり、本学の教育の指針でもあります。本学では、この指針に基づき、音楽学部、人文学部、人間発達学部の3学部において、それぞれの学問分野における専門性に係る教育上の目的を掲げ、建学の精神を体現し、社会に貢献し得る有為な人材の育成に努めています。

また、大学が有する諸機能に関して、本学は3学部それぞれ、特定の専門的分野の教育、幅広い職業人養成、総合的教養教育、と異なっていますが、それらを通じた地域への社会貢献という点では共通しており、各学部それぞれの機能と社会貢献の複合が、本学の使命と目的と考えています。以上に基づいて、『相愛大学将来構想』において、本学の教育上の目的を、この「共生」「利他」の精神のもと、具体的には(1)生命の尊さを学ぶ、(2)人生の目的を探究する、(3)市民的公共性を養う、(4)総合的な判断力を養う、(5)地域と連動し地域を担う人材を育成する(6)ボランティア精神を涵養する、の6点を教育目標として定めています。

本学における教職課程の考え方は、以上にあげた建学の精神、学則に規定する本学の目的と使命、本学が担うべき大学の機能『相愛大学将来構想』に示された6つの教育目標を基盤とするものであり、これらを教員養成の目的としています。教員は教育基本法

第9条に定めるように、「自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努める」人材であるべきです。本学ではこの点を重要なことと考え、教員を志願する学生に対して、つねにこれを意識させるような教育を行うことに努めています。

この目標を達成するため、各々の免許取得に関して、以下のような指導計画を実践しています。

## ② 各免許取得の指導計画

### <中学校・高等学校教諭免許>

中高免許に関しては、教育的愛情をもって生徒と向き合い、同僚教員や保護者と協働できる人間性豊かな教員を育成することを目的とし、教職に対する理解と、専門教科の実践的な指導力の向上とを両立させて、教員としての総合的な力量を培うことを目指します。

**1年次**では、教育の理念・思想、発達や学習の過程について学び、教員となるための基礎的な理解を得るとともに、教科に関する基礎的な知識の学習を開始します。

**2年次**では、教職の意義、生徒指導、教育の制度、教育相談について学び、教科教育法の学習を開始します(3年次まで)。教育活動を行う上で必要な基本的な知識・技能を習得します。

**3年次**では、教育の方法と技術、教育課程の編成、道徳教育について学び、より専門的な教育的資質を養うとともに、介護体験を通じて様々な立場の人々に対する理解を深めます。

**4年次**では、教育実習に取り組み、教職課程を履修して身につけてきた力が、教員として必要な実践的な資質能力として有機的に統合され形成されているかを確認します。

### <小学校教諭免許>

本学の建学の精神「當に相い敬愛すべし(當相敬愛)」(他者の心や立場を大切にする)という教育理念をもとに、優れた教師の条件である「総合的な人間力」の育成と、教育現場が抱える課題に対応できる教員養成をめざし、4年間を学修年次にしたがって段階的に学ぶカリキュラムを展開しています。

**1年次**には教育に興味を持って学校教育全体を概観し、小学校教諭の基礎となる理論的基盤を形成します。

**2年次**からは基礎から応用へ、総論から各論へと学修を展開します。

**3年次**では、教科教育や指導法など専門性の育成を重視したカリキュラムを多数配置し、本格的に実践力の育成に取り組みます。

**4年次**においては、知識や技能等学内における学習と教育実習を有機的に統合し、広

く深い児童理解をもとに適切な対応や援助、指導を実践できる資質能力を形成します。  
養成段階における多様な体験の確保や得意分野の素地の形成、振り返りを通じた実践力の強化を図り、小学校教諭としての実践的指導力の育成を図ります。

### <幼稚園教諭免許>

優れた幼稚園教諭の条件である「総合的な人間力」の育成と、幼稚園教育現場が抱える課題に対応できる教員養成をめざし、4年間を学修年次にしたがって段階的に学ぶカリキュラムを展開しています。幼児理解に基づき、遊びを通じて総合的に指導するという幼稚園教諭の専門性の養成を基盤に、段階的にカリキュラムを展開しています。

**1年次**には教育に興味を持って学校教育全体を概観し、幼稚園教諭の基礎となる理論的基盤を形成します。

**2年次**からは演習科目を多く開設し、基礎から応用へ、総論から各論へと学修を展開します。

**3年次**では実践力の育成を重視したカリキュラムを多数配置し、本格的に実践力の育成に取り組みます。

**4年次**においては、知識や技能等学内における学習を有機的に統合し、現実と直面した学びを創造することの重要性を再認識し、適切な対応や援助、指導を実践できる資質能力を形成します。

養成段階における多様な体験の確保や得意分野の素地の形成、省察を通じた実践力の強化を図り、幼稚園教諭としての実践的指導力の育成を図ります。

### <栄養教諭免許>

食に関する高度で専門的な知識を備え、食の問題を「心」と「からだ」の両面からとらえた食育ができる栄養教諭の育成を目指しています。

**1、2年次**では教職に関する基礎的な科目を修得します。

**3年次**では、学校栄養教育論Aで食に関する指導の重要性、学校給食の役割、栄養教諭の全体像及び職務の実際等について学びます。さらに、学校栄養教育論Bでは、学校給食を「生きた教材」として活用し、給食の時間、関連教科、道徳、特別活動など全教育活動を通じて行う指導へとより具体的な内容に発展させます。

**4年次**では、栄養教育実習に向けて、学校教育や組織をテーマとして取り上げるとともに、実習授業に必要な学習指導案、教材作成を行い、模擬授業を通して学生相互の指導力を高めます。最後に履修する教職実践演習では、既に修得している栄養教諭としての知識・技能と栄養教育実習等で得られた食に関する指導力の更なる向上を目指します。

## 2. 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること

### ① 教員養成に係る組織

#### ・ 教職課程委員会

教育実習及び教職課程全般の円滑・適正な運営を図る全学的な組織として、教育学部長、「教職に関する科目」担当の専任委員、各学部の教務主任及び専任教員、教学課長で組織する教職課程委員会を設置しています。教職課程委員会のもとに、初等教育教員免許部会、中等教育教員免許（専修免許を含む）部会、栄養教諭免許部会を置き、免許種ごとに、教職及び教科に関する教育内容、教育方法等を向上させるように努めております。

#### ・ 各部会教職課程合同研究室等

学校現場の経験や教職に関する豊富な知識を持つ教員が、教員免許取得や教員採用試験対策に関わる学習支援・情報提供など、教員養成に関わる総合的な支援を行っています。

### ② 教員の養成に係る教員の数

・ 中学校、高等学校教諭一種免許（音楽）	……………	56名	（※個人レッスン等除く）
・ 中学校、高等学校教諭一種免許（国語）	……………	26名	
・ 中学校、高等学校教諭一種免許（宗教）	……………	29名	
・ 小学校教諭一種免許	……………	33名	
・ 幼稚園教諭一種免許	……………	30名	
・ 栄養教諭一種免許	……………	13名	

### ③ 各教員が有する学位及び業績並びに担当授業科目

別添① 参照

## 3. 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること

### ① 教員の養成に係る授業科目

別添② 参照

② 授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画

教員の養成に係る本年度開講の授業科目のシラバス（授業計画）については、  
下記のアドレス「シラバス照会」から検索してください。

<http://portal.soai.ac.jp/up/faces/login/Com00501A.jsp>

4. 卒業者の教員免許状の取得の状況に関すること

・卒業者の教員免許状の取得状況（過去5年間）

<音楽学部>

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
卒業生数	学部	62人	83人	69人	59人	59人
	専攻科	7人	8人	6人	8人	6人
免許状 取得者数	実人数	29人	29人	29人	33人	33人
	小一種免					
	中一種免	27人	29人	28人	33人	28人
	高一種免	28人	29人	28人	33人	28人
	中専修免	1人	1人	1人		5人
	高専修免	1人	1人	1人		5人

<人文学部>

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
卒業生数		87人	73人	88人	85人	84人
免許状 取得者数	実人数	6人	※7人	3人	2人	8人
	小一種免					
	中一種免	6人	8人	3人	2人	7人
	高一種免	6人	8人	3人	2人	8人

※ 1人が中高の2種類の免許を取得

<人間発達学部子ども教育学科／子ども発達学科>

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
卒業生数		63人	58人	55人	47人	44人
免許状 取得者数	実人数	58人	44人	49人	39人	24人
	幼一種免	54人	44人	45人	35人	24人
	小一種免	42人	37人	38人	31人	12人
	中一種免				1人	
	高一種免				1人	

<人間発達学部管理栄養学科／発達栄養学科>

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
卒業生数		68人	49人	57人	59人	71人
免許状 取得者数	実人数	5人	4人	3人	2人	8人
	中一種免					
	高一種免					
	栄教一種免	5人	4人	3人	2人	8人

5. 卒業生の教員への就職の状況に関すること

<音楽学部>

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
卒業生数（専攻科含む）		69人	91人	75人	67人	65人
教員就職者数	小学校	2人	2人		1人	1人
	中学校	5人	3人	7人	3人	5人
	高等学校				2人	1人
	特別支援				3人	

<人文学部>

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
卒業生数		87人	73人	88人	85人	84人
教員就職者数	小学校					
	中学校	1人		2人		1人
	高等学校	2人				1人

<人間発達学部子ども教育学科／子ども発達学科>

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
卒業生数		63人	58人	55人	47人	44人
教員就職者数	幼稚園	6人		7人	1人	1人
	小学校	14人	12人	12人	13人	3人
	中学校					

**<人間発達学部管理栄養学科／発達栄養学科>**

区 分		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
卒業生数		64人	49人	57人	59人	71人
教員就職者数	栄養教諭	1人				

**6. 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること**

**<中学校・高等学校教諭免許>**

中学校・高等学校の教員としての使命感や責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力、生徒を理解し学級を運営する能力、教科内容の指導力という、教員として求められる資質能力を向上させていくことを課題として、教職及び教科に関する学内での授業においては、講義に加えてグループ討論、ロールプレイング、ディベート、模擬授業等の方法を取り入れています。また、現職教員や校長経験者を外部講師として招くこと、卒業生の現職教員と交流することによって、その経験から学び、教育現場の現状を理解できるように努めます。さらに、教職に就くために必要な知識・技能を学生が身につけていくことを目指して、教員採用試験を視野に入れて、2年生の段階から学生が自発的に組織する研究会での指導、及び、学生ひとりひとりに対する個別指導を行っています。

**<小学校教諭免許>**

小学校現場で学び成長していける教員の養成をめざして、多彩な教育環境を開発し、体験を通じた実践的な学びを創造しています。キャンパス内に「相愛ビオトープとつどいの里山」の学習環境をはじめ、ラーニング・コモンズ・ゾーンを設置し、主体的学びを引き出す教育方法の導入を行っています。1年次の「保育・教育実践学習」や4年次の「保育・教育インターンシップ」で、教育実習以外に現場を体験する機会を開発し単位化しています。さらに、地域の小学校と連携し、子どもたちとの交流を通じた教育方法の展開を学科全体の取り組みとして実施しています。また、実践的技量を高め資質能力の向上を目指す取り組みとして、専門家を招いてのスキルアップ講座や卒業生や現場教員と学生が共に学ぶ場としての「教師力UP講座」なども実施しています。教員間で、学校現場に出るまでに育てたい力の共通理解と科目間連携を図りながら小学校教員養成を行っています。

**<幼稚園教諭免許>**

教員になる者の体験活動を重視し、多様な体験を通じた実践的な学びの場として多彩な教育環境を開発し実践しています。キャンパス内に「相愛ビオトープとつどいの里山」の学習環境をはじめ、ラーニング・コモンズ・ゾーンを設置し、主体的学びを引き出す

教育方法の導入を行っています。教育実習以外に現場を体験する機会を1年次の「保育・教育実践学習」や4年次の「保育・教育インターンシップ」を開設し単位化しています。さらに、幼稚園教諭に求められるニーズの高度化・多様化への対応をめざし、地域の幼稚園だけでなく保育所や小学校と連携し、子どもたちとの交流を通じた教育方法の展開を学科全体の取り組みとして実施しています。また、地域の子育て家庭との連携により保護者とのかかわりについても実践的に学習する場を開設しています。いずれも、教員間で、学外実習を軸とした専門科目での育てたい力の共通理解と教育内容の科目間連携を図り実施しています。

### ＜栄養教諭免許＞

栄養教諭には、子どもたちが将来にわたって健康で生き生きと生活していけるように、子どもたちに対する食育を充実し、望ましい食習慣の形成を図ることが求められています。

本学の栄養教諭の育成に当たっては、管理栄養学科の目標でもある実践力の育成に重点を置いています。そこで、学校現場での実践を踏まえた学習指導案や教材例を取り上げるとともに、学生による学習指導案、教材の作成をあらゆる場面で取り入れ、模擬授業を行い、学生相互の評価を通して指導力の向上に努めています。最終の教職実践演習では、近隣の小学校に依頼して学校参観を実施します。栄養教諭による食に関する指導の授業を参観して、研究協議の場で意見交換を行い、また、校長先生には、食に関する指導のみならず学校経営全般にわたって、学生が準備した質問にお答えいただき、学校の教職員としての心構えを培っています。



## < 中学校・高等学校教諭免許 >

教員養成に係る教員数84名(専任教員25名、非常勤講師59名)

### ① 教育の基礎的理解に関する科目等

	教員氏名	担当科目	学位	研究業績
専任教員	長谷川 精一	教育原論	博士 (教育学)	*『森有礼における国民的主体の創出』、思文閣出版、2007年 *『考えを深めるための教育原理』、ミネルヴァ書房、2019年 *「沖縄言語論争」再考(『知の伝達メディアの歴史研究—教育像の再構築—』)、思文閣出版、2009年 *「福沢諭吉における兵役の「平等」—徴兵論と兵役のがれの間(『明治国家の精神史的研究』)、以文社、2007年 *「森有礼」、「福沢諭吉」(『人物で見る日本の教育』)、ミネルヴァ書房、2011年 *「言語教育と地域語との関係に関する比較史的考察」、相愛大学研究論集31巻、2015年
		教育史		
		教職入門		
		教育実習1 (事前事後指導)		
		教育実習2 (実地実習)		
		教育実習3 (実地実習)		
		教職実践演習 (中・高)		
	沼田 潤	教育の方法と技術 (情報通信技術の活用含む)	博士 (教育学)	*「ネガティブなイメージを持たれている外国に対する偏見を低減する写真提示の効果」、人間環境学研究会「人間環境学研究」9巻2号、2011年 *「日本人大学生における異文化理解の現状」、人間環境学研究会「人間環境学研究」10巻2号、2012年 *「Effects of a letter-writing task on empathy toward Japanese- Brazilians as out-group members: An educational method for intercultural understanding in universities and colleges」、『Psychologia』Vol.56、2013年 *『Effective Methods for Intercultural Education』、ユニオンプレス、2021年
		教育実習1 (事前事後指導)		
		教育実習2 (実地実習)		
教育実習3 (実地実習)				
教職実践演習 (中・高)				
非常勤講師	高橋 みづき	学校の制度と経営	博士 (教育学)	* 高等学校における教員養成プログラムの展開と課題—「教育」関連コース等の設置と教育実践に着目して—、修士論文、神戸大学、2011年 * 日本の教育制度と教育行政(英語版)、共著、東信堂、2018年
	閻 琳	教育心理学	博士 (文学)	*「在日外国人留学生を対象としたアルバイト動機づけ尺度の作成」、日本パーソナリティ心理学会『パーソナリティ研究』26巻2号、2017年 *「在日外国人留学生のアルバイト職務満足感—自己決定理論に基づく検討」、日本心理学会『心理学研究』90巻2号、2019年

非常勤講師	池本 真知子	教育心理学	博士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 博士論文:「声質における感情認知の研究」、2010年</li> <li>* コラム5-1:声はごまかせない:感情の音声知覚、青山健二郎・神山貴弥・武藤崇・畑敏道(編)、心理学概論[第2版] pp.117 ナカニシヤ出版、2014年</li> <li>* Cultural Influences on the Structure of Emotion :An Investigation of Emotional Situations Described by Individuals from Cambodia,Japan,UK and US、International Journal of Applied Psychology、6、20-26、2016年</li> <li>* Voice quality perception from emotional voices: Comparison of emotional utterances in English and Japanese 、Applied human informatics (AHI)、1、1-17、2019年</li> </ul>
	藤原 彰子	特別支援教育	教育学士	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『特別支援教育の工夫と実践 —インクルーシブ教育システムの推進のために—』、共著、株式会社ジアース教育新社、2019年</li> <li>*『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編』、共著、文部科学省、2009年</li> </ul>
	児玉 祥一	教育課程の意義と編成	教育学修士	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『考えを深めるための教育課程』教育課程についての考えを深めるために(2)教育課程の変遷—教科課程の時代を中心に、共著、ミネルヴァ書房、2023年</li> <li>*「求められる教師と理想の教師像—同志社・京都教育大学教職大学院での教職の授業を通して—、同志社大学教職課程年報第5号、2015年</li> <li>*「新科目「歴史総合」における大項目「近代化と私たち」の教材開発に向けて—地域教材から幕末・開港期の日仏交流を探る—」、共著、同志社大学教職課程年報第11号、2022年</li> </ul>
	倉本 香	道徳教育論	博士 (哲学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『近代倫理思想の世界』、共著、晃洋書房、1998年</li> <li>*『道徳性の逆説—カントにおける最高善の可能性—』、晃洋書房、2004年</li> <li>*『倫理のノート』、共著、萌書房、2015年</li> </ul>
	吉田 卓司	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	修士 (法学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「新版教職入門生徒指導法を学ぶ」、三学出版、2008年</li> <li>*「生徒指導法の実践研究—生徒指導と教職教育の新戦略」、三学出版、2008年</li> <li>*「教育方法原論 - アクティブラーニングの実践研究」、三学出版、2013年</li> <li>*「教育実践基礎論 - アクティブラーニングで学ぶ」、三学出版、2018年</li> </ul>
		教育相談		
大橋 忠司	生徒・進路指導論	理学士	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『新しい教職基礎論』、共著、サンライズ出版、2018年</li> <li>*『新しい教職教育講座 教職教育編② 教職論』、共著、ミネルヴァ書房、2018年</li> <li>*「いじめの未然防止の発想に立った学級づくりと特別活動(学級活動)—生活質問紙(クラスマネジメントシート)の活用による学級経営—」、同志社大学教職課程年報第5号、2015年</li> </ul>	

② 大学が独自に設定する科目

	教員氏名	担当科目	学位	研究業績
専任教員	益田 圭	人権教育	修士 (人間・環境学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『人権年鑑(旧『部落解放・人権年鑑』)』共著、解放出版社、1999年～2013年まで毎年執筆</li> <li>*「被差別部落をめぐる周辺住民の常識的知識と実践的推論」、実験社会心理学研究36巻 1号 68-78頁、1999年</li> <li>*「差別に関わる心理的メカニズム」、部落解放研究135号79-88頁、2000年</li> <li>*「被差別部落に関する意識と人権感覚の形成過程」、部落解放研究 156号 2-15頁、2004年</li> <li>*「行政職員対象の人権意識調査の現状と課題」、部落解放研究 162号 16-23頁、2005年</li> </ul>
	沼田 潤	異文化間教育論		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照
		介護体験		
	長谷川 精一	介護体験		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照
前田 雅章	介護体験	修士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『みんなが輝く体育(3) 小学校中学校 体育の授業』、共著、創文企画、2006年</li> <li>*『日本の踊り 小学校運動会BOOK 演技編』、いかだ社、2009年</li> <li>*修士論文:「障害児体育における運動文化の教材化とその実践についての一考察」、和歌山大学、2011年</li> <li>*「『ともに意味を問い直す』障害児体育とは」、学校体育研究同志会『たのしい体育・スポーツ』、2012年</li> </ul>	
非常勤講師	中川 陽子	人権教育	修士 (社会福祉学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『新・初めての社会保障論』、共著、法律文化社、2014年</li> <li>*『保育者のための子ども家庭福祉』、編著、青山社、2020年</li> <li>*『NIE社会的養護演習』、共著、大学教育出版、2021年</li> </ul>
	村田 卓生	介護体験	教職修士 (専門職)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『特別活動と総合的学習・探求の理論と指導』、共著、学術研究出版、2020年</li> <li>*「『気づき』から思考力育成を考える」、兵庫教育大学大学院同窓会学校教育研究紀要、2016年</li> </ul>
	倉本 香	道徳教育論		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照

③ 教科及び教科の指導法に関する科目(国語／宗教)

	担当教員	担当科目	学位	研究業績
(人文学部) 専任教員	釋 徹宗	宗教心理学	博士 (学術)	「宗教についての基礎的な問い」pp.21-25『宗教と教育・人権・平和』平和文化、2015年 「現代を生きる力としての仏教」『仏教文化』第五十四号、東京大学仏教青年会、2015年 「日本人による比較宗教論」『行信学報』通巻第二十九号、行信教校、2016年 『宗教は人を救えるのか』、角川SSC新書、2014年 『日本靈性論』、共著・NHK新書、2014年 『死では終わらない物語について書こうと思う』、文藝春秋、2015年 『歎異抄 信じる心は一つである』、NHK出版、2016年 『落語に花咲く仏教－宗教と芸能は共振する－』、朝日新聞出版、2017年
	佐々木 隆晃	真宗学概論	修士 (文学)	*『浄土真宗の基礎知識』、共著、大法輪閣、2012年 *「和讃で学ぶ浄土真宗」、『季刊せいてん』、本願寺出版社、2015年～2016年 *『浄土真宗の聖教(安心決定鈔)を読む』、大法輪閣、2016年 *「浄土真宗における聖典の歴史と意義」、『近代化と学問』、相愛大学総合研究センター、2016年 *『月々のことば2017年』、共著、本願寺出版社、2016年 *『ここがわからん浄土真宗』、共著、大法輪閣、2019年 *「私たちのちかいに学ぶ建学の精神の意味」『宗教教育研究会紀要』2019年度第52回、龍谷総合学園、2020年
		真宗史		
	日高 明	宗教学概論B	修士 (文学)	*『『善の研究』の百年 世界へ／世界から』、共著、京都大学学術出版会、2011年 *「中期西田哲学における質料概念の意義」、『日本哲学史研究』第6号、2009年 *「仏教サンガにおけるケアの持続性—摩訶僧祇律を中心に—」、『宗教研究』第96巻別冊、2023年 *「宗教的儀礼が認知症高齢者の心のケアに果たす役割についての考察」、『応用老年学』第17巻第1号、2023年
		仏教学概論A		
宗教史				
哲学概論				
阿尾 あすか	日本文学概論	博士 (文学)	*『伏見院 コレクション日本歌人選』笠間書院、2011年 *「日記と和歌—『中務内侍日記』を例に」、倉本一宏編、『日記で読む日本史1 日本人にとって日記とは何か』臨川書店、201～230頁、2016年 *「中世和歌における「子猷尋戴」故事の変容」、森田貴之・小山順子・蔦清行編、『アジア遊学223 日本人と中国故事 変奏する知の世界』勉誠出版、48～58頁、2018年 *「京極派和歌の独自性とは何か」、松田浩・上原作和・佐谷眞木人・佐伯孝弘編、『古典文学の常識を疑うⅡ 縦・横・斜めから書きかえる文学史』、126～129頁、2019年	
	日本文学入門1			
	文化資料論A (日本文学)			
	国語科教育法C			

(人文学部) 専任教員	千葉 真也	日本古典文学史	修士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「物にゆく道」とは何か、『相愛大学研究論集』第27号、246～232頁、2011年</li> <li>*「本居宣長と類題集」、『鈴屋学会報』第33号、2016年</li> <li>*「『宝暦十一年辛未嶺松和歌集』其十」、『相愛大学研究論集』第33号、2017年</li> <li>*「本居宣長の仮名遣い—一定家仮名遣いは、いつまで使われたか—」、『鈴屋学会報』第35号、2018年</li> </ul>
	荒井 真理亜	日本文学入門2	博士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『上司小剣文学研究』、和泉書院、2005年</li> <li>*『上司小剣コラム集』、編書、龜鳴屋、2008年</li> <li>*『大阪文藝雑誌総覧』、共編書、和泉書院、2013年</li> <li>*『『道草』論集 健三のいた風景』、共編書、和泉書院、2013年</li> <li>*「宇野千代『日露の戦間書』論—他者の戦争体験を記録するという—」、増田周子編『戦争の記録と表象—日本・アジア・ヨーロッパ—』、関西大学出版部、129～139頁、2013年</li> <li>*『食文化・味覚雑誌目次総覧』、共編書、日外アソシエーツ、2015年</li> <li>*『谷崎と鏡花』、共編書、おうふう、2017年</li> <li>*『薄田泣菫読本』、共編書、翰林書房、2019年</li> </ul>
		日本近代文学史		
		日本文化特殊講義 (日本文学)		
		文化資料論B (日本文学)		
	国語科教育法D			
非常勤講師	嵩 宣也	宗教学概論A	博士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 日本仏教と英語翻訳—真宗関連のテキストを中心に—、学位論文(博士)、2021年</li> <li>* 外国人宣教師たちの真宗思想—M.L.GordonからPaul Carusへ—、『真宗学』146号、2022年</li> <li>* “The Construction of History in English Translations of Shin Buddhist Texts: Through the Creation of the Bibliography of Japanese Buddhist Texts,” The Journal of World Buddhist Cultures (JWBC) 6, 2023年</li> </ul>
	塚田 博教	仏教学概論B	文学修士	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「浄土真宗における死生観」、『宗教研究』331、2002年</li> <li>*「菩提心論争の背景についての一考察」、『龍谷教学』39、2004年</li> <li>*「親鸞における信罪福心についての研究」、『印度学仏教学研究』53-2、2005年</li> <li>*「宗教的情操の涵養～子どもへの宗教的情操教育～」、『龍谷大学大学院実践真宗学研究科紀要』11、2022年</li> </ul>
	多村 至恩	宗教社会学	修士 (社会学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「古代日本における喪服の色」、『親鸞と人間 光華会宗教研究論集』第4巻、永田文昌堂、2013年</li> <li>*『真宗儀礼百華』第1巻・第2巻・第3巻、共著、浄土真宗本願寺派総合研究所 仏教音楽・儀礼研究所企画編集、本願寺出版社、2016年</li> </ul>

非常勤講師	三木 英	比較宗教学	博士 (人間科学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『宗教集団の社会学—その類型と変動の理論』(単著)、北海道大学出版会、2014年</li> <li>*『宗教と震災—阪神・淡路、東日本のそれから』(単著)、森話社、2015年</li> <li>*『被災記憶と心の復興の宗教社会学—日本と世界の事例に見る』(編著)、明石書店、2020年</li> </ul>
	名越 康文	宗教心理学	学士 (医学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「心がスーッと晴れ渡る感覚の心理学」、角川SSC新書、2012年</li> <li>*『どうせ死ぬのになぜ生きるのか』、PHP新書、2014年</li> <li>*『浄心への道順—瞑想と覚りをめぐる初期仏教長老と精神科医の対話—』、共著、サンガ、2016年</li> <li>*『医療と仏教—仏教が補完する医療の未来』、共著、サンガ、2017年</li> <li>*『「他人」の壁 唯脳論×仏教心理学が教える「気づき」の本質』、共著、SBクリエイティブ、2017年</li> </ul>
	霍野 廣由	宗教社会活動論	修士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*修士論文:伝統的寺院活動の再考～特に月忌の重要性に着目して～、『龍谷大学大学院実践真宗学研究科紀要』第2号、2014年</li> <li>*「月忌参りの研究～月忌参における儀式儀礼の意義～」、『浄土真宗総合研究』第9号、浄土真宗本願寺派総合研究所、2015年</li> </ul>
	釋 大智	宗教社会活動論	修士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「覚如教学と真宗倫理」、単著、『宗教研究』第90巻別冊、日本宗教学会、2017年</li> <li>*「真宗における菩薩論の一考察—倫理的解釈を手がかりとして—」、単著、龍谷大学真宗学会第71回大会発表『真宗学』137・138号、2017年</li> <li>*「親鸞浄土教における菩薩概念と他者論—『菩薩の倫理学』を契機として」、単著、『真宗研究会紀要』第49号、龍谷大学大学院真宗研究会、2018年</li> </ul>
	直林 不退	日本仏教史A・B	博士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『日本三学受容史研究』、永田文昌堂、1～680頁、2012年</li> <li>*『構築された仏教思想・妙好人』、佼成出版社、1～157頁、2019年</li> <li>*『布教技法としての節談』、永田文昌堂、1～262頁、2020年</li> </ul>
	井上 陽	仏教史	修士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「ヤッカウラング周辺の仏教遺跡」、『密教図像』第26号、pp.31～47、2008年</li> <li>*「バンデ・アミールからムルガープへ」、『龍谷大学370周年記念報告書』pp.67～72、2010年</li> </ul>

非常勤講師	小野 真龍	宗教哲学	博士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『ハイデッガー研究』(単著)、京都大学出版会、2002年</li> <li>*『雅楽のコスモロジー』(単著)、法蔵館、2019年</li> <li>*「雅楽のコスモロジーと「近代」-日本哲学展開の背景-」、『日本哲学史研究』第15号収録、京都大学日本哲学史研究室編、2019年</li> </ul>
	高田 未明	真宗聖典学	修士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「親鸞浄土教における救いの特性 —現生正定聚の倫理的視座—」、『岐阜聖徳学園大学仏教文化研究所紀要』20号、2020年</li> <li>*「親鸞における弥陀救济思想と倫理観 —悪人正機説を手掛かりとして—」、『中央仏教学院紀要』24号、2013年</li> <li>*「蓮如の諸行観と本師本仏論」、『宗教研究』367号、2011年</li> </ul>
	森内 優子	宗教科教育法 A~D	修士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「『歎異抄』における中心問題」、龍谷大学文学部仏教学科真宗学専攻卒業論文、1995年</li> <li>*「浄土教における「慈悲」の研究」、龍谷大学大学院文学研究科紀要通号26、2004年</li> </ul>
	八坂 尚美	国語学概論	修士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「『虎明本狂言』と『狂言六義』における行為要求表現の対照」、日本近代語研究会『論究日本近代語 第2集』、2022年</li> <li>*「虎明本狂言における言語意識—『わらんべ草』と照らして—」、関西大学国文学会『国文学』第107号、2023年</li> <li>*「鷺流狂言台本忠政本の行為要求表現—虎明本・狂言六義との対照を通して—」、日本近代語研究会『論究日本近代語 第3集』、2024年</li> </ul>
	北林 利治	言語学概論	修士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『現代英語学へのアプローチ』、英宝社、2014年</li> <li>*『ことばとの対話—理論・記述・言語教育—』、英宝社、2019年</li> <li>*「英語描写表現における原因と結果の構造」、日本比較文化学会『比較文化研究』第9号、2016年</li> </ul>
	溝端 悠朗	国語表現法	博士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*元永元年十月二日内大臣忠通歌合考—「両判」という行事形態をめぐって—、『和歌文学研究』118号、和歌文学会、2019年6月</li> <li>*「奈良花林院歌合」の詠歌表現、『日本文学研究ジャーナル』12号、古典ライブラリー、2019年12月</li> </ul>
	亀山 泰司	国語学演習A・B	博士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「日本紀略神代巻の位置づけ—丹鶴本との比較を通じて—」、武庫川女子大学大学院雑誌『かほよとり』第14号、2010年3月</li> <li>*「書紀歌謡1番の「廻」字について—β群の字音表記の在り方から考える—」、『上代文学』第105号、2010年11月</li> <li>*「古事記の「宇気布時」—その時間表現を考える—」、研究叢書512『上代学論叢』所収、和泉書院、2019年5月</li> </ul>

非常勤講師	川上 萌実	漢文学	博士 (文学)	*「大目乾連冥間救母變文」訳注(5)、京都府立大学 学術報告 人文第72号、2020年 * 勅撰三集序の文体について—嵯峨朝の官撰国書 編纂のあり方—、和漢語文研究第19号、2021年 *「金剛醜女因縁」訳注(3)、和漢語文研究第19号、 2021年
		漢文学講読A		
	宮武 衛	漢文学講読B	修士 (文学)	* 曼殊院蔵 和漢聯句作品集、臨川書店、2022年 * ちさとのほかまでながめたる—『徒然草』百三十七 段一、京都大学国文学論叢第46号、2022年 * 永正十三年七月二十九日和漢聯句(名残折)訳注、 国語国文第91巻第8号、2022年
	福田 知可志	漢文学史A・B	博士 (文学)	*『夷堅志』訳注乙志下(共訳)、汲古書院、2018年 *『玉歴鈔伝』嘉慶十七年凌周文序刊本訳注(八)、 『颯風』第58号、2019年
	泉 美智子	書道A・B	学士 (教育)	*『書法芸術 I～Ⅲ』、中教出版、2006年 *『おしゃれに暮らす』—書の装い—、中教出版、2001 年
井上 雅彦	国語科教育法 A・B	博士 (文学)	*『伝え合いを重視した高等学校国語科カリキュラム の実践的研究』、溪水社、2008年 *「新人教員養成のための教職大学院のカリキュラム の理論と課題」、京都教育大学大学院連合、教職実践 研究科年報第3号、pp.11～25、2014年 *「高校国語実践の省察と展望」、共著、三省堂、 pp.90～97、2014年	



③ 教科及び教科の指導法に関する科目(音楽)

	担当教員	担当科目	学位	研究業績
(音楽学部) 専任教員	川崎 真由子	ソルフェージュ I～IV	修士 (音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『ピアノ～小笠原鳥類の詩による～』第30回現音作曲新人賞受賞、2014年</li> <li>*『必ず役立つ 吹奏楽ハンドブック 和声編』(共著)、ヤマハミュージックメディア、2014年</li> <li>*「ラヴェルの対位法—《クーランの墓》第2曲〈フーガ〉を用いたソルフェージュ教育—」、洗足学園音楽大学教職課程年報、2018年</li> <li>*低音デュオ委嘱『低い音の生きもの』NHK-FM「現代の音楽」放送、2023年</li> <li>* Music From Japan音楽祭2024(ニューヨーク)招聘作曲家、2024年</li> </ul>
		和声法演習 I～IV		
	泉 貴子	専攻実技 I～IV (声楽)	博士 (音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*リサイタル(2007,2008,2009,2013,2014,2015,2022)</li> <li>*カワイ楽器主催「こどもの為のコンクール」審査員(2008)</li> <li>*国際芸術連盟主催「声楽コンクール」審査員(2012)</li> <li>*香川県コンクール審査員(2013,2019)</li> <li>*東京国際声楽コンクール西日本部門審査員(2015,2016)</li> <li>*和歌山コンクール声楽部門審査員(2016)</li> <li>*独唱独奏コンクール 声楽部門審査員(2016)</li> <li>*日本クラシック音楽コンクール審査員(2016)</li> <li>*国際声楽コンクール東京審査員(2021,2022,2023,2024)</li> <li>*プリマヴェーラ声楽コンクール審査員(2022,2023,2024)</li> <li>*主なオペラ出演:《魔笛》(2009)、《アイーダ》《ドン・ジョヴァンニ》《マリア・ストゥアルダ》(2010)、《アドリアーナ・ルクヴルール》(2012)、《ドン・カルロ》(2014)、《アンドレア・シェニエ》(2015)、《三部作》(2016)、《聖セザンナ》《修道女アンジェリカ》《ジャンニ・スキッキ》(2016)、《フィガロの結婚》(2017)、《イリス》(2017)、《フィガロの結婚》(2018)、《アドリアーナ・ルクヴルール》(2021)、《魔笛》(2023)</li> <li>*主なコンサート・ソリスト: ジョイントコンサート(2012)、中之島国際音楽祭2013(2013)、交野の第九(2014)、山田耕祐先生没後50周年記念演奏会(2015)、吹田市民の第九(2015)、ロータリークラブニューイヤーコンサート(2018)、《千人の交響曲》(2018)、Una serata di Musica Rossiniana(2018)、子供チャリティーコンサート(2018)、Trio Concerto(2019)、住之江の第九(2019)、日艶男戦記～光源氏&amp;ドン・ジョヴァンニ(2019)、海辺のオペラ《魔笛》ハイライト&amp;オペラガラコンサート(2019)、オールスター紅白歌合戦2020(2020)、オペラ紅白歌合戦(2021)、帰ってきたゴールデンコンサート(2022)、歌の花束コンサート(2022)、《戦争レクイエム》(2023)、関西二期会創設60周年記念オペラ・ガラ・コンサート(2024)</li> </ul>
		副科声楽		

(音楽学部) 専任教員	岡坊 久美子	専攻実技 I ~ IV (声楽)	学士	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 2000年10月 関西二期会オペラ R.ワーグナー「パルジファル」(クンドリー)</li> <li>* 2001年 2月 かねでんクラシックススペシャル W.A.モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」(ドンナ・アンナ)</li> <li>* 2003年10月 関西二期会オペラ R.シュトラウス「ばらの騎士」(元帥夫人)</li> <li>* 2004年 6月 いずみホールオペラ 三木 稔「春琴抄」(てる女)</li> <li>* 2008年 2月 びわ湖ホールオペラR.シュトラウス「ばらの騎士」(元帥夫人) 3月 神奈川県民オペラ R.シュトラウス「ばらの騎士」(元帥夫人)</li> <li>* 2006年、2012年11月 リサイタル</li> <li>* 2012年 9月 東日本大震災のためのチャリティーコンサート(於:ベルリン)</li> <li>* 2013年10月 ジョイントコンサート &lt;協演:畑 義文&gt;</li> <li>* 2016年 7月 ジョイントリサイタル &lt;協演:禅定 佳隆&gt; 12月 第九演奏会(芸文大ホール)</li> <li>* 2017年 4月 ハーフコンサート&amp;公開レッスン &lt;伴奏:碓 理沙&gt;</li> <li>* 2018年 7月 土屋和之バリトンコンサート(賛助出演)</li> <li>* 2019年10月 相愛大学教員コンサート</li> <li>* 1987年 9月 文化庁派遣芸術家在外研修員としてベルリン(旧西ベルリン)に留学</li> <li>* 1994年 第1回日独リーダークライス夏期講習会 講師として参加(南山城ホール)</li> <li>* 1995年 第1回日独リーダークライス春期講習会 講師として参加(チューリンゲン州 クロッセン城)</li> <li>* 1995年~2010年 春期講習会(日本)・夏期講習会(ドイツ)講師として毎年参加</li> <li>* 2016年 7月 第1回「岡坊久美子 公開レッスン」開講 (YOSHUホール)</li> <li>* 2017年 4月 第2回「岡坊久美子 公開レッスン」開講 (YOSHUホール)</li> <li>* 2017年10月 第3回「声楽と伴奏法のコラボレッスン」開講(YOSHUホール) ミニコンサート &lt;後藤 育恵、岡坊 久美子&gt; 11月 相愛大学声楽公開レッスン(相愛大学南港ホール)</li> <li>* 2018年 7月 第4回「公開レッスン」(YOSHUホール)</li> </ul>	
		副科声楽			
	山本 英二	専攻実技 I ~ IV (ピアノ)		修士 (音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「美音のスタインウェイで奏でる愛の旋律」美音Mion 金曜コンサートVol.9、2014年</li> <li>* 4人のピアニストによる無限の響き~1台2手から2台8手まで~, 2015年</li> <li>* コーロ・サンガ40周年記念演奏会、2015年</li> <li>* 山田耕作先生没後50周年記念演奏会、2015年</li> <li>* 教員によるSOAI Concertピアノ専攻教員によるアンサンブルの夕べ、2016年</li> </ul>
		副科ピアノ I・II			

(音楽学部) 専任教員	井上 麻紀	専攻実技 I ~ IV (ピアノ)	学士 (芸術)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ショパン生誕200周年記念リサイタル、東京芸術センター定期演奏会リサイタル、第229回美術館の調べ レクチャーコンサート~ショパンの生涯を追って~、2010年</li> <li>* 日本赤十字病院さわやかコンサート、2010年</li> <li>* 生誕201年ショパンとシューマン(共演:児嶋一江氏)、ケネス・チェ サクソフォンリサイタル(共演:ケネス・チェ氏)、スワヴォミル・トマシク ヴァイオリンリサイタル(共演:スワヴォミル・トマシク氏)、2011年</li> <li>* 第1回神戸芸術センター特別演奏会 東日本大震災復興支援チャリティーコンサート リサイタル「時代を代表する作曲家達」、美術館の調べリサイタル~スメンジャンカ氏へのオマージュ~、大阪クラシック(共演:塚本慈和氏、細田昌宏氏)、林裕チェロリサイタル(共演:林裕氏)、2012年</li> <li>* 相愛スプリングコンサート、リサイタル~ピアノの魔術師とピアノの詩人~、2014年</li> <li>* リサイタル~ショパンの生涯を追って~、4人のピアニストによる無限の響き(共演:山本英二氏、長谷川美穂子氏、釈迦郡洋介氏)、2015年</li> <li>* カワイ音楽コンクール課題曲講座、課題曲レクチャー講座とコンサート</li> <li>* カワイ音楽コンクール関西大会、奈良県独奏独唱コンクール、ヤングピアニストコンサート、寝屋川市 アルカスピアノコンクール審査員</li> </ul>
		副科ピアノ I・II		
		伴奏法 II		
		アンサンブル演習 I A・I B		
	稲垣 聡	専攻実技 I ~ IV (ピアノ)	学士 (芸術)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 東京現代音楽祭室内楽コンクール《競楽 I》入賞、平和堂財団若手芸術家奨励賞、1991年</li> <li>* 第4回宝塚ベガ音楽コンクールピアノ部門第1位・特別賞、1992年</li> <li>* 滋賀県文化奨励賞、2003年</li> <li>* 稲垣聡ピアノリサイタル、2000・2001・2007年</li> <li>* 東京オペラシティB→C“稲垣聡・中川賢一デュオリサイタル、2003年</li> <li>* サントリー・サマー・フェスティバル2004《20世紀の槌音》、2004年</li> <li>* 第24回 東京の夏音楽祭2008“フィーナーレ”、紀尾井ホール、2008年</li> <li>* ヤマハ・ヤングピアニストコンサート、日本ピアノ教育連盟ピアノ・オーディション審査員、平和堂財団若手芸術家奨励賞選考委員</li> </ul>
		副科ピアノ I・II		
		伴奏法 I		
		アンサンブル演習 I A・I B		
		アンサンブル演習 II A・II B		
	柏木 玲子	副科実技 I・II	学士 (音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 『月刊エレクトーンブックス 即興演奏 こうすりや委員会』、単著、ヤマハミュージックメディア、2004年</li> <li>* 『平均律クラヴィア曲集 分析・演奏』I・II、共著、株式会社ケイ・アイ・エム、2013年</li> <li>* UTA・IMA・SHOW ど、ど、ど、どっさり! ミュージカル!!、草月ホール(東京)、2014年</li> <li>* UTA・IMA・SHOW III Enough、草月ホール(東京)、2015年</li> <li>* ヤマハ大阪ビル1周年記念 スペシャルコンサート、ヤマハ大阪ビル、2016年</li> </ul>
		専攻実技 I ~ IV (創作演奏)		

(音楽学部) 専任教員	清水 信貴	専攻実技 I ~ IV (管弦打楽器)	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 読売日本交響楽団フルート奏者、1977~1985年</li> <li>* 京都市交響楽団首席フルート奏者、1986~2016年</li> <li>* ヘッドライナーリサイタル(ロスアンゼルス・アメリカフルートコンベンション)J.M.ダマーズとのリサイタル(パリ)、他</li> <li>* CD「パリの煌めき」</li> <li>* 日本音楽コンクール、日本管打楽器コンクール、びわ湖国際フルートコンクール、マクサンス・ラリュエ国際フルートコンクール、他審査員</li> </ul>
		オーケストラA・B		
	前田 昌宏	専攻実技 I ~ IV (管弦打楽器)	学士 (芸術)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ミ・ベモルサクソフォンアンサンブルを1989年に創設以来、国内外において演奏会を継続し、ラージサクソフォンアンサンブルを高い芸術性を持つ新たなジャンルへと築き上げた。</li> </ul>
		オーケストラA・B		
岡本 哲	専攻実技 I ~ IV (管弦打楽器)	学士 (音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 広島交響楽団トロンボーン奏者、1995~2005年</li> <li>* 京都市交響楽団首席トロンボーン奏者、2005年~2024年</li> <li>* 第14回日本管打楽器コンクール第3位入賞、1997年</li> <li>* 第17回日本管打楽器コンクール第2位入賞、2000年</li> <li>* 日本管打楽器コンクールの審査員を2015年、2018年、2023年に務める</li> </ul>	
	オーケストラA・B			
中谷 満	専攻実技 I ~ IV (管弦打楽器)	学士 (芸術)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 大阪フィルハーモニー交響楽団ティンパニー、打楽器奏者(1973~2008)</li> <li>* 1977年旧西独国立ベルリン高等音楽院留学中、ベルリン放送管弦楽団、西独ベルリンドイツオペラ管弦楽団などに出演(1977~78)</li> <li>* 大阪シュベルマー金管アンサンブルの打楽器奏者として参加</li> <li>* 現代音楽集団「グループM」・中谷満パーカッションアンサンブル「シュレーゲル」主宰(1990~)</li> <li>* 朝比奈隆指揮大阪フィルハーモニー交響楽団演奏会にて平吉毅州「独奏ティンパニーとオーケストラの為の海のある風景」独奏(1981)</li> <li>* テーリヘン指揮、テーリヘン「ティンパニ協奏曲」独奏(1995)</li> <li>* 下野竜也指揮大阪フィルハーモニー交響楽団演奏会、モーツァルト作曲「八台のティンパニーの為の協奏曲」独奏(2000)</li> <li>* 龍谷大学吹奏楽団演奏会、酒井格「ティンパニ協奏曲」初演(2010)</li> <li>* フライブルク音楽大学に於いて武満徹「四季」演奏、「武満徹作品の演奏法や解釈」「ティンパニの奏法や演奏法」マスタークラスを行う(2014)</li> <li>* 日本管打楽器コンクール、松方音楽賞、全日本吹奏楽コンクール他、審査員</li> </ul>	
	オーケストラA・B			

(音楽学部) 専任教員	田辺 良子	専攻実技 I ~ IV (管弦打楽器)	Bachelor of Music, Master of Music	* 神戸室内合奏団コンサートマスター(1984-1994) 他 客演コンサートマスターとして群馬交響楽団、広島交 響楽団、関西フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽 団、京フィル等 * いずみシンフォニエッタ大阪メンバー * ソロリサイタル開催、 (1984,1986,2002,2005,2008,2011,2013年) * ポーランド・ヴロンスキー国際ヴァイオリンコンク ール、2009,2015年 * 全日本学生音楽コンクール、日本芸術コンクール他 審査員
		オーケストラA・B		
	大谷 玲子	専攻実技 I ~ IV (管弦打楽器)	修士 (音楽)	* 第62回日本音楽コンクール第1位、増沢賞、1993年 * 第11回ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクール 最高位入賞、1996年 * CD「イザイ:無伴奏ヴァイオリンソナタ全6曲」、2008 年 * CD「Polonaise!」、2011年 * ソリスト、室内楽奏者として世界中で活発に演奏活 動。2016年J.S.バッハ無伴奏ヴァイオリンソナタ・パル ティータ全曲リサイタルを大阪、東京で実施 * 関西フィルとソリストとして共演、ロームミュージック フェスティバルでベートーヴェンの七重奏曲などの室内 楽を演奏、2017年 * 2000年よりいずみシンフォニエッタ大阪、2001年より サイトウ・キネン・オーケストラメンバー
		オーケストラA・B		
	伝田 正則	専攻実技 I ~ IV (管弦打楽器)	学士 (音楽)	* ザールブリュッケン放送交響楽団チェロ奏者、2006 年~2007年 * ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団チェロ奏者、 2008年~2009年 * 神戸市演奏協会、神戸市室内合奏団主席チェロ奏 者、2009年~2018年 * 神戸市民文化振興財団、神戸市室内管弦楽団主席 チェロ奏者、2018年~ * 第70回日本音楽コンクール最高位受賞、及び徳永 賞受賞、2001年 * 読売日本交響楽団、京都市交響楽団、オーケスト ラ・アンサンブル金沢、大阪フィルハーモニー交響楽 団、九州交響楽団等の客演首席チェロ奏者を務める * シエナ音楽祭、クロンベルク音楽祭、FMシンフォ ニーコンサート、リゾナーレ音楽祭、木曽音楽祭などに 出演
		オーケストラA・B		
	松本 直祐樹	作曲実技 I ~ IV	修士 (音楽)	* 第74回日本音楽コンクール作曲部門(室内楽曲)第 3位、岩谷賞、2005年 * 第75回日本音楽コンクール作曲部門(オーケストラ 作品)第2位、岩谷賞、2006年 * Isang Yun International Composition Prize 2009年 入選。 * 主要作品:「砂上の楼閣」(2009年)、「Mistic Focus」 (2013年)、「Chaconne」(2013年)、「Mistic Waves」 (2014年)、他 * 所属学協会:若手作曲家集団「秘密結社」(2005年 より会長)、日仏現代音楽協会、日本作曲家協議会
		楽式論	修士 (メディア 表現)	

非常勤講師	田末 勝志	合唱 I・II	修士 (音楽)	* 京都産業大学混音合唱団二ポポの技術顧問、常任指揮者、1995年
	林 そよか	和声法演習 I・II	修士 (音楽)	* 『ギタートリオ作品「夏色スケッチ」』、現代ギター社、2019年 * 薬師寺食堂落慶法要記念奉納曲作曲、2017年 * 大阪いずみホール、関西フィルハーモニー管弦楽団(藤岡幸夫指揮)により『弦楽と打楽器のための“Fantasia”』初演、2017年 * フェニックスホール『Osaka Guitar Summer2019』にて「4つの海の物語」初演、2019年 * 住友生命いずみホール、関西フィルハーモニー管弦楽団(藤岡幸夫指揮)により『ピアノ協奏曲第1番“Cosmos High”』初演、2020年
	田淵 雅子	近世歌謡	学士 (音楽)	* 社団法人当道音楽会より箏・三絃少授導職格取得、1994年
		地歌・箏曲 I		
	常磐津 都崑蔵	常磐津 I	学士 (文学)	* 重要無形文化財常磐津節(団体)保持者 * 「都崑蔵研究会」を主催、1983年～
	小野田 富美子	伴奏法演習	学士 (音楽)	* ウィーンにおける夏期音楽講習に参加、1988年 * ザ・フェニックスホールにてソロリサイタル開催(モーツァルト、ショパン、ドビュッシーを演奏)、2002年 * ザ・フェニックスホールにてソロリサイタル開催(～ドビュッシー生誕150年によせて～)、2012年
	末岡 智子	伴奏法演習	修士 (音楽)	* デビューリサイタル、青山音楽記念会館、1994年 * 舞鶴ジョイントコンサート、舞鶴市総合文化会館、1995年 * 水無月コンサート、同志社女子大学頌啓館ホール、1995年
	宮本 聖子	伴奏法 I	学士 (音楽)	* ピアノリサイタル、豊中市立文化芸術センター 2019年、2020年 * ベートーヴェン ピアノ三重奏曲全曲演奏シリーズ ヤマハミュージック大阪なんば店サロン 2018年～2019年 * ブラームス 室内楽ツィクルス ヤマハミュージック大阪なんば店サロン 2019年～ * ベルリントリオ(ピアノトリオ)として各地でリサイタル 2014年～
小椋 由美子	伴奏法 I	芸術 学士	* 1991年度文化庁在外派遣研究員として1年間渡米、カーネギー・ワイル・リサイタルホールにてマダムバタフライの全曲演奏 * 「本物の舞台芸術体験事業」にて関西二期会のオペラ歌手と共にピアノ伴奏者として参加 * 第14回「上方の舞台裏方大賞」受賞、2017年	

非常勤講師	碓 理早	伴奏法Ⅱ		<ul style="list-style-type: none"> <li>* ソロリサイタル開催、御坊市(1994,2002,2006,2010年)</li> <li>* 岡坊久美子ソプラノリサイタル伴奏、御坊市、2014年</li> <li>* 牧村邦彦氏監修 気楽にクラシック ピアノソロ・伴奏、堺市榎文化会館、2019年</li> </ul>
	塩見 亮	アンサンブル演習ⅡB	学士(音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* &lt;ピアノソロ&gt;「塩見亮ピアノリサイタル」、青山音楽記念館バロックザール、2007年</li> <li>* &lt;協奏曲&gt;「堺フィルハーモニー交響楽団第33回定期演奏会」、大阪狭山市文化会館、2007年</li> <li>* &lt;室内楽&gt;「西村祐可子ヴァイオリン・リサイタル」、奈良秋篠音楽堂、2007年</li> <li>* &lt;歌曲・合唱&gt;関西二期会「ドイツ歌曲の流れ Vol.19」、2007年</li> </ul>
	粕谷 育子	ソルフェージュⅠ～Ⅳ	学士(音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 刊行中の著書『視唱ステップアップ』共著、(株)全音楽譜出版社、2008年</li> <li>* 『二つの《幻想即興曲》フォンタナ版と自筆譜による版をめぐって』相愛音楽教室通信クレフ第11号、2005年</li> <li>* クァルテット濤標コンサート曲目解説(バロックザール)、2019年</li> <li>* ボリス・ベクテレフ氏ピアノリサイタル曲目解説(兵庫県立芸術文化センター小ホール)、2010年</li> <li>* 相愛音楽教室サマーコンサート曲目解説(相愛学園本町学舎講堂)、2004,2005,2006,2008,2009,2010年</li> <li>* 所属学会 日本ソルフェージュ研究協議会正会員</li> </ul>
	吉澤 ゆかり	ソルフェージュⅢ～Ⅳ	学士(音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「保育学科における簡易楽譜の導入2」論文発表、大阪芸術大学短期大学部紀要第40号、2018年</li> <li>* 「帷～とばり～」作曲発表、第27回深新會関西作曲作品展、2018年</li> <li>* 「潮汐～しお～」作曲発表、第28回深新會関西作曲作品展、2019年</li> </ul>
		和声法演習Ⅲ・Ⅳ		
	山本 京子	ソルフェージュⅠ～Ⅳ	学士(音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 西日本ピアノコンクール第2位、「山口市長賞」受賞、1992年</li> <li>* 「視唱 ステップ・アップ」～初心者から音大生まで～、全音楽譜出版社 共著、2008年</li> <li>* 第3回ニューロリハビリテーション学会において音楽運動療法の分野で発表、2012年</li> </ul>
	橋詰 智章	器楽合奏	学士(音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 大阪、いずみホール「グローバル ピース コンサート」、2000年</li> <li>* 大阪、朝日新聞社内アサコムホール アサコムコンサート「オカリナのあたたかい音色」、2001年</li> </ul>
	小野 真龍	雅楽Ⅰ	博士(文学)	※③の「教科及び教科の指導法に関する科目(国語/宗教)」欄 参照

非常勤講師	高木 了慧	雅楽 I	学士 (音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『バイオハザード・ゼロ』の作曲、2002年</li> <li>*『モンスターハンター・オンライン』の作曲、2013年</li> <li>*浄土真宗本願寺派『第三種・讃仰作法(音楽法要)』一式の作曲、2011年</li> <li>*『ファイナルファンタジー』シリーズの作曲・編曲、2000年～2020年</li> </ul>
	新發田 恵司	雅楽 I	学士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 国立劇場55周年記念「天王寺舞楽」、国立劇場、2021年</li> <li>* 高松塚古墳壁画発見50周年記念舞楽公演「伎楽と天王寺舞楽」、関西大学、2022年</li> <li>* 四天王寺聖霊会舞楽大法要、大阪住吉大社観月祭、雅楽ゼミナール他恒例出演</li> </ul>
	上田 真紀郎	指揮法 I・II	学士 (音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 京都フィルハーモニー室内合奏団客演コンサートマスター(2001年)</li> <li>* 小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトオーケストラメンバー(2001年～2003年)、サイトウ キネン オーケストラメンバー(2004年、2008年、2012年)</li> <li>* 兵庫県立西宮高等学校音楽科オーケストラ指揮者として定期演奏会を指揮(2013年～)</li> <li>* 相愛ジュニアオーケストラ発表演奏会(2001年～)、イタリア演奏旅行(2015年)、淡路島公演(2017年、2018年)、瀬戸内公演(2019年)などを指揮、また相愛フィルハーモニアを指揮(2018年～)</li> </ul>
		管弦楽概説		
	奥西 千壽	和声法演習 I・II	学士 (音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 深新會関西第2回、第3回作品展に出品、1987年</li> </ul>
	ジョルダ・ダヴィド	ソルフェージュ I・II		<ul style="list-style-type: none"> <li>* エリック・サティについての考察「Citations et emprunts dans l'oeuvre pour piano d'Erik Satie」、2015年</li> <li>* Contemporary Computer Music Competitionにて「Sonatine Aquarelles」が最終選考ノミネート、同志社女子大学で演奏される、2022年</li> </ul>
		和声法演習 I・II		
大慈弥 恵麻	和声法演習 I～IV	学士 (音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 相愛大学音楽学部非常勤講師、1985年～</li> <li>* 相愛大学音楽学部作曲専攻研究科修了、情報科学芸術大学院大学研究生修了</li> <li>* 日本現代音楽協会、関西現代音楽交流協会会員</li> <li>* 作品出版上演多数</li> </ul>	
小西 円子	和声法演習 III・IV	学士 (音楽)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 深新会員様関西第24回作曲作品展ピアソラの為の「RingWandering1,2」を出品、2014年</li> <li>* 深新會関西第26回作曲作品展二本のバスクラリネットによる「moving」を出品、2017年</li> </ul>	



非常勤講師	竹内 直	西洋音楽史(中世・ルネッサンス・バロック)	博士 (音楽学)	*『植民地における近代音楽の帰属意識—東アジアとオーストラリアの芸術歌曲の場合』、京都市立芸術大学、2019年 * 早坂文雄の音楽観—「汎東洋主義」の音楽観の形成過程を中心に—、日本伝統音楽研究、2015年 *「音と身体の記事研究」に向かって—序にかえて、芸術支援研究センター紀要『COMPOST』vol.01、2020年
		西洋音楽史 (古典派・ロマン派)		
	福本 康之	日本音楽史	修士 (芸術)	*「仏教における異文化受容—その洋楽受容をめぐる」、日本音楽表現学会編『音楽表現学のフィールド』、2010年
	由比 邦子	諸民族の音楽	修士 (文学)	*『ポピュラー・リズムのすべて～ポップス・ロック・ラテンの分析と奏法～』、勁草書房、1996年 *「台湾サオ族の杵搗き音楽に見る伝統の保持と生き残るための観光化」、民族芸術学会編『民族芸術』第31巻、93-99、民族芸術学会、2015年
	石井 尚子	音楽科教育法 A～D	学士 (音楽)	* 相愛大学音楽学部非常勤講師、1997年～
	林 更紗	音楽科教育法 A～D	修士 (教育学)	*『よくわかる音楽教育学』、共著、ミネルヴァ書房、2023年 *「ウェールズにおける音楽教育カリキュラムとその実際」、東京大学大学院教育学研究科紀要第63巻、2024年

## < 小学校教諭免許 >

教員養成に係る教員数33名(専任教員14名、非常勤講師19名)

### ① 教育の基礎的理解に関する科目等

	担当教員	授業科目	学位	研究業績
専任教員	後藤田 洋介	教育方法論 (情報通信技術の活用含む)	修士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「陸前高田市文化遺産調査におけるESD教材開発(5)-まちづくりを題材にしたESD-」、奈良教育大学 次世代教員養成センター研究紀要 第2号、2016年</li> <li>*「「持続可能な社会づくり」の構成概念とESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度に関する一考察-実践事例の抽出検討による考察-」、奈良教育大学紀要 第65巻第1号(人文・社会)、2016年</li> <li>*「原子・分子の実在性を考える教材の研究-原子論の歴史を題材に-」、奈良教育大学 次世代教員養成センター研究紀要 第2号、2016年</li> <li>*「ESD子どもキャンプにおける学生の学びの分析-ESDを実践する教員に必要な資質・能力との比較-」奈良教育大学 次世代教員養成センター研究紀要 第4号、2018年</li> <li>*「小学校理科における”日常生活”の取り扱いに関する一考察」、大阪成蹊大学研究紀要 教育学部編 第5号、2019年</li> </ul>
		教育課程論		
		教育実習の指導 (事前事後指導)		
		教育実習 (実地実習)		
	北川 健次	教職論	博士 (臨床教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「教師の維持可能性と研修」『経済科学通信』基礎経済科学研究所No.112、2006年、pp.54-61</li> <li>*「自分を表現する子どもたち」『教育』No.756、2009年、国土社、pp24-31</li> <li>*「子どもの声を聴きながら歩む」単著『教育』No.898、旬報社、2020年、pp.37-42</li> <li>*「実践を綴りながら、子どもの思いに迫る」単著『教育』No.900、旬報社、2021年、pp.76-82</li> <li>*「自由な語り合いの時間を教室に」単著『教育』No.922、旬報社、2022年、pp.69-74</li> <li>*「市民の主体形成をどう導くのか」共著『市民が創る経済学をめざして-人間発達ゼミ30周年記念論人間発達ゼミ論集』基礎経済科学研究所、2006年、pp.29-38</li> <li>*「芦田恵之助における随意選題思想の基底-芦田の受けた綴方教育体験と『丙申水害実況』とに着目して-」単著『臨床教育学研究』日本臨床教育学会第2巻、2014年、pp.90-106</li> </ul>
		教育実習の指導 (事前事後指導)		
		教育実習 (実地実習)		

専任教員	中村 敏	教育心理学 (子ども)	博士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「2人実験場面での教示と自己教示がスケジュールパフォーマンスに与える影響」『心理学研究』第89巻第4号、2018年</li> <li>*「ルール支配行動を制御する他者の役割: 教示者、観察者、媒介者」『人文研究(大阪市立大学大学院文学研究科紀要)』第70巻、2019年</li> <li>*「社会的影響とルール支配行動—ルール提示者数がルール性制御に及ぼす影響—」『行動分析学研究』第34巻第1号、2019年</li> <li>*「他者からの教示と他者への教示の行動獲得促進効果—フィードバックの機会のある実験場面での検討—」『行動科学』第61巻第1号、2022年</li> <li>*「言語を介した質の高い幼児教育を目指して—本邦における就学前児童を対象とした応用行動分析的研究のレビュー—」『学校教育学会誌』第25巻、2022年</li> </ul>
		学校カウンセリング		
	直島 正樹	特別支援教育 (幼・小)	修士 (社会福祉学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『障害児保育の理論と実践—インクルーシブ保育の実現に向けて—』、ミネルヴァ書房、2010年</li> <li>*『保育実践に求められるソーシャルワーク—子どもと保護者のための相談援助・保育相談支援—』、共編著、ミネルヴァ書房、2012年</li> <li>*『障害者への支援と障害者自立支援制度—障害者ソーシャルワークと障害者総合支援法—』、みらい、2013年</li> <li>*『図解で学ぶ保育 社会福祉』、共編著、萌文書林、2015年</li> <li>*『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』、ミネルヴァ書房、2016年</li> <li>*「日本におけるインクルーシブ教育・保育の実現に向けた現状と課題—特別支援教育をめぐる動向を踏まえて—」、『相愛大学研究論集』第34巻別冊、2018年</li> </ul>
	曲田 映世	教育実習の指導 (事前事後指導)	修士 (学校教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「実習指導の効果を高める教育方法の研究(その3)—幼稚園・保育所での実習における学生の自己評価と現場評価の比較検討から—」、『相愛大学研究論集』第28巻、2012年</li> <li>*「保育者養成校における歌唱指導に関する研究—裏声を用いた発声を中心として—」、『兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士論文』、2014年</li> <li>*「保育者養成課程における表現活動の指導方法に関する研究: ICT を活用した授業実践を中心として」、『相愛大学研究論集』第34巻別冊、2018年</li> <li>*「保育者養成校と実習園との連携に関する基礎的研究」、『相愛大学研究論集』第34巻別冊、2018年</li> </ul>
教育実習 (実地実習)				
前田 雅章	特別支援教育 (幼・小)	修士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『みんなが輝く体育(3) 小学校中学校 体育の授業』、共著、創文企画、2006年</li> <li>*『日本の踊り 小学校運動会BOOK 演技編』、いかだ社、2009年</li> <li>*修士論文:「障害児体育における運動文化の教材化とその実践についての一考察」、和歌山大学、2011年</li> <li>*『ともに意味を問い直す』障害児体育とは、学校体育研究同志会『たのしい体育・スポーツ』、2012年</li> </ul>	
	教育実習の指導 (事前事後指導)			
	教育実習 (実地実習)			
	教職実践演習 (幼・小)			

専任教員	石本 日和子	生徒・進路指導の理論と方法	修士 (教育学)	*「教師になったあなたへ！先輩教員からのアドバイス」、『クレスコ』大月書店、2019年 *「子どもの声を聴き、ともに歩む教師に」、『クレスコ』大月書店、2021年 *「子どもの「今、ここ」を寿ぐ学校を」、『教育』教育科学研究会、2020年
		教育実習の指導 (事前事後指導)		
		教育実習 (実地実習)		
		教職実践演習 (幼・小)		
	中塚 景子	教育実習の指導 (事前事後指導)	短期 大学士 (保育学)	*「幼稚園における「数量・形」と小学校での「算数」の学びをつなげる幼小連携カリキュラムの開発に関する予備的研究」、甲南女子大学研究紀要 第46号人間科学編、2010年 *「自然や地域社会を学習環境として取り入れた幼児教育実践～幼児の協同する経験と学びの連続性に着目して～」、神戸大学大学院人間発達環境学研究科紀要第4巻第1号、2010年 *「気付きから始まる幼児の遊び～学びのタイムライン～」、芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園研究紀要、2019年 *「あしやの幼児教育(No.1)」、芦屋市立幼稚園教育研究会研究紀要、2020年 *「あしやの幼児教育(No.2)～子どもの気付きからはじまる保育～」、芦屋市立幼稚園教育研究会研究紀要、2021年 *「あしやの幼児教育(No.3)～身近な自然との関わりからはじまる保育～」、芦屋市立幼稚園教育研究会研究紀要、2022年
		教育実習 (実地実習)		
教職実践演習 (幼・小)				

非常勤講師	弘田 みな子	学校の制度と経営 (幼・小)	修士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「言語と生命—野村芳兵衛の生活綴方実践を手がかりに—」、京都大学教育学研究科紀要論文、2014年</li> <li>*「設定保育における「模倣」に関する考察—幼稚園2歳児クラスの「仏参」の事例をもとに—」、大阪城南女子短期大学紀要論文、2020年</li> </ul>
	近藤 順子	教育原理	修士 (人間科学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『「学び合う場」をデザインする～環境教育から学ぶ10のファシリテーションスキル～』、共著、日中韓環境教育ネットワーク(TEEN)共同プロジェクト委員会、2020年</li> <li>*「The Role of Place-Based Education in Strengthening Community Resilience against Climate Change」、共著、環境教育31巻2号、2021年</li> <li>*「地域に根ざした教育における教育関係者のウェルビーイング— The Southeast Michigan Stewardship Coalition (SEMIS) の事例から —」、ESD研究第5号 vol.5、2022年</li> </ul>
	横島 三和子	道徳教育の理論と実践	修士 (学校教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「小学校国語科における教科内容の再検討—新学習指導要領をふまえた表現・言語力教育—」、大阪人間科学大学教職課程研究紀要第2号、2018年</li> <li>*子ども理解とアセスメントを支援するための問題構造可視化システムの開発—「チームとしての学校」における保健室の創造的問題解決—、相愛大学研究論集第33巻、2017年</li> <li>*「アクティブ・ラーニングを中心に据えたモデル・コア・カリキュラムによる医療事務職員養成について」、医療秘書実務論集第5号、2015年</li> </ul>
	上野山 小百合	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法(小)	学士 (心理学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『どの子も参加したくなる希望の授業づくり 小学校— 読んだ! 試した!! 大成功!!!』、共著、フォーラムA、2014年</li> <li>*『子どもが動き出す授業づくり—総合・道徳・保健の時間にできる「主体的・対話的で深い学び」』、共編著、いかだ社、2017年</li> <li>*「総合的な学習における高学年児童の学びと発達—健康教育の『対話の授業』でなぜ子ども・教師・親が変わるのか—」、京都橘大学健康科学部心理学科学士論文、2016年</li> </ul>
	中井 清津子	教育実習の指導 (事前事後指導)	短期 大学士	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「関係性を創り出す幼児の育成を求めて」、滋賀大学附属幼研究紀要、2007年～2010年</li> <li>*「5歳児後半における「協同して遊ぶ」、初等教育資料867号84頁、東洋出版社、2010年</li> <li>*「障害のある幼児とともに暮らして」、初等教育資料760号、東洋出版文庫省、2002年</li> <li>*「LD、ADHD、高機能自閉等の指導(気になる子)の保育と就学支援」、共著、東洋館出版社、2005年</li> <li>*「人間関係の育ちとコミュニケーション力が育つ要因や遊びを考えるプロジェクト」、滋賀大学地域教育連携年報紀要第68号69号70号、2011年～2013年</li> <li>*「指導と評価に活かす記録」幼稚園教育指導資料集第5集、文部科学省、2013年</li> <li>*『あしたの保育が楽しくなる実践事例集 ワクワク! ドキドキ! が生まれる環境構成』、ひかりのくに、2017年</li> </ul>

② 大学が独自に設定する科目

	教員氏名	担当科目	学位	研究業績
専任教員	岩口 摂子	子どものためのピアノ奏法(基礎)	学士 (芸術)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「日本と中国の幼児の歌における旋律比較」日本応用教育心理学会『応用教育心理学研究』第27巻第1号、2010年</li> <li>*「保育者養成における音楽教育の基礎研究4－異文化間における音楽的感性の違いと異文化の音楽教育への応用－」相愛大学人間発達研究所『人間発達学研究』創刊号、2010年</li> <li>*『「新版」ピアノが弾ける3つのステージ ～楽しく無駄なくピアノをマスター～』、東音企画、2011年</li> <li>*『「表現」がみるみる広がる！保育ソング90 ～魔法の伴奏で保育力アップ～』、明治図書、2012年</li> <li>* From student evaluations to teacher performance: a study of piano class instruction, (Music Education Research, Routledge) Vol.14, No.2, 2012.</li> <li>*「保育者・教師養成課程の学生のピアノ練習に関する基礎研究」(『応用教育心理学研究』第31巻第1号)、2014年</li> <li>*「明治の2つの時期の幼児唱歌と現在の幼児の歌における音楽的特徴の統計的検討」『相愛大学研究論集』第33巻、2017年</li> </ul>
		子どものための歌と伴奏		
	後藤田 洋介	ICT活用教育		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照
	曲田 映世	子どもの遊びと文化		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照
保育・教育実践学習				
進藤 容子	子どもの食育	博士 (学術)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『体験・実践・事例に基づく保育内容「環境」－身近な自然・社会とのかかわり－』保育出版社、2008年</li> <li>*『保育内容「環境」論』ミネルヴァ書房、2010年</li> <li>*「保育者養成校学生の理科に対する意識の研究(1)－他の教科との比較検討－」『湊川短期大学紀要』第45集、2009年</li> <li>*「小学校での食育実践における課題－「食べ物を大切にする視点」からの考察－」『湊川短期大学紀要』第46集、2010年</li> <li>*「子ども発達学科における科目間連携による初年次教育の構築」『相愛大学研究論集』第33巻、2017年</li> <li>*「保育者養成課程における食育実践力向上にむけた取組と保育内容指導力育成－領域「環境」の観点から－」『相愛大学研究論集』第34巻別冊、2018年</li> </ul>	
	世代間交流演習			

専任教員	中塚 景子	世代間交流演習	※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照	
		保育・教育実践学習		
	直島 正樹	保育・教育実践学習	※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照	
	前田 雅章	保育・教育実践学習	※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照	
	永井 毅	保育・教育実践学習	修士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 保育者論 (テキスト)、株式会社 みらい、2017年</li> <li>* 保育内容の指導法(テキスト)、ミネルヴァ出版、2018年</li> <li>* 新・保育と環境 (テキスト)、嵯峨野書院、2019年</li> <li>* 「保育者養成課程の環境演習授業改善の試み一知の協働化を図るICTの活用一」、『湊川短期大学紀要』、第55巻、pp.1-6、2019年</li> <li>* 「子どもの自然遊びを豊かにする保育実習前授業の改善一保育にかかわる「虫」を題材とした演習授業に見る学生の意識変化一」、『保育学研究』、第57巻、pp.90-101、2019年</li> <li>* 「ニュージーランド・オークランドにおける幼児の環境教育の特徴一幼稚園とプレイセンターの視察をもとにして一」、『湊川短期大学紀要』、第56巻、pp.10-16、2020年</li> </ul>
	川中 美津子	子ども生活技術演習	博士 (芸術学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「梅田都心における消費者文化の担い手としての3百貨店の役割(1)一ファッション美学的アプローチ一」、ファッションビジネス学会論文誌Vol.11、2006年</li> <li>* 「ファッションの大衆化一ユニセックスからゴスロリ一」、日本衣服学会誌Vol.54 No.2、2011年</li> <li>* 「『新人類』女性におけるファッション意識と行動に関する一考察一10年間のライフスタイルの変化を探る一」、ファッションビジネス学会論文誌Vol.16、2011年</li> <li>* 「ファッション美学と感性分類」、感性工学第11巻4号、2013年</li> </ul>
子ども生活文化演習				
益田 圭	人権教育	修士 (人間・環境学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 『人権年鑑(旧『部落解放・人権年鑑』)』共著、解放出版社、1999年～2013年まで毎年執筆</li> <li>* 「被差別部落をめぐる周辺住民の常識的知識と実践的推論」、実験社会心理学研究36巻 1号 68-78頁、1999年</li> <li>* 「差別に関わる心理的メカニズム」、部落解放研究135号79-88頁、2000年</li> <li>* 「被差別部落に関する意識と人権感覚の形成過程」、部落解放研究 156号 2-15頁、2004年</li> <li>* 「行政職員対象の人権意識調査の現状と課題」、部落解放研究 162号 16-23頁、2005年</li> </ul>	
沼田 潤	異文化間教育論	博士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「ネガティブなイメージを持たれている外国に対する偏見を低減する写真提示の効果」、人間環境学研究会「人間環境学研究」9巻2号、2011年</li> <li>* 「日本人大学生における異文化理解の現状」、人間環境学研究会「人間環境学研究」10巻2号、2012年</li> <li>* 「Effects of a letter-writing task on empathy toward Japanese- Brazilians as out-group members: An educational method for intercultural understanding in universities and colleges」、『Psychologia』Vol.56、2013年</li> <li>* 『Effective Methods for Intercultural Education』、ユニオンプレス、2021年</li> </ul>	

非常勤講師	大橋 邦康	子どものための ピアノ奏法(基礎)	学士 (音楽)	* ベートーヴェンピアノソナタ全曲リサイタル、寝屋川市サモックホール、2007年より2016年迄10回シリーズ * ゆかりコンサート、フルーティスト福谷 一美氏とのデュオコンサート、寝屋川サモックホール、2016年 * 「情熱と律動 クロイツェル・ツィガーヌ」 ヴァイオリニスト金関環氏とのデュオコンサート、埼玉県宮代町進修館及び東京文京区ラリール、2016年
		子どものための歌 と伴奏		
	横山 由美子	子どものための ピアノ奏法(基礎)	学士 (音楽)	* 保育者養成における音楽教育の基礎研究3ー学生によるピアノの授業評価の分析ー、相愛大学研究論集第25巻、2009年 * 保育者養成における音楽教育の基礎研究4ー異文化間における音楽的感性の違いと異文化の音楽教育への応用ー、相愛大学人間発達学研究創刊号、2010年 * 「表現」がみるみる広がる！保育ソング90～魔法の伴奏で保育力アップ～、明治図書、2012年
		子どものための歌 と伴奏		
	西村 優子	子どものための ピアノ奏法(基礎)	芸術 学士	* ブルガリア国立トルブーヒン室内オーケストラ演奏会、協奏曲独奏、1988年 * 堺フロイデ合唱団夏のコンサート、協奏曲独奏、1990年 * 木管五重奏とピアノの調べ、独奏室内楽、2012年
河瀬 里子	子どものための歌 と伴奏		* 「ピアノ作品集としてのクルターク《遊び》——「伝統」との関わりを中心に」、神戸大学大学院修士論文、2005年 * 「ジェルジィ・クルターク《遊び》にみる古典への意識」、公益財団法人日本ピアノ教育連盟紀要第25号、2009年 * Homage a Poulenc、兵庫県立西宮芸術文化センター神戸女学院小ホール、2013年	
塩田 桃子	子どもとリズム	修士 (福祉社会学)	* 『オンライン授業に対応 乳幼児の健康<改訂版>』、[監修]宮下恭子、[編著]茗井香保里・平山素子・山西加織 [著]9名、大学図書出版、2023年 * 『オンライン授業に対応 乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび』、茗井香保里・宮下恭子 他12名、大学図書出版、2022年 * 「コロナ禍における運動あそびの模擬保育による教育効果と今後の課題-学生の振り返りアンケートの結果と省察レポートから」、共著、大阪成蹊短期大学 大阪成蹊短期大学研究紀要第19号、pp.71-82、2022年 * 『新みんなが輝く体育④幼児期運動あそびの進め方』、口野隆史他9名、創文企画、2021年 * 「保育者養成校における民舞『荒馬』に関する一考察ー領域「表現」の指導及び教育方法論との関連に着目してー」、共著、大阪健康福祉短期大学 創発(大阪健康福祉短期大学紀要)第9号、pp.17-31、2020年 * 「運動遊びや表現遊びの模擬保育の実践と省察ー学生の学びの分析ー」、共著、大阪成蹊系大学・大阪成蹊短期大学 大阪成蹊教職研究(大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学紀要)第2号、pp.83-92、2020年	



非常勤講師	高田 学	造形実習	学士 (芸術学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 第30回秋季創画展入選、東京都美術館・京都市美術館、2003年</li> <li>* 第31回秋季創画展奨励賞、東京都美術館・京都市美術館、2004年</li> <li>* 第32回秋季創画展入選、東京都美術館・京都市美術館、2005年</li> </ul>
		子どもと造形表現		
	川嶋 啓子	造形実習	学士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「日本の伝統職人芸とNUNO」21/21須藤玲子の世界とNUNO展カタログ(共著)2005年</li> <li>* 「Japanese Textile」TEXTILE05展カタログ(共著)、2005年</li> <li>* 「International Tapestry/ORI RHYTHMI I II」ORI RHYTHM展カタログ(共著)、2012年</li> <li>* 「FROM TAPESTRY TO FIBER ART "THE LAUSANNE BIENNIALS 1962-1995"」(共著) 発行 FOUNDATION TOMS PAULI, SWISS 2017年</li> <li>* 「DEEP RIVERS FLOW SILENTLY "Exhibition of Contemporary Japanese and Lithuanian Textile"」展カタログ(共著) 発行 KAUNAS BIENNAL, LITHUANIA 2019年</li> </ul>
		子どもと造形表現		
	中川 陽子	人権教育	修士 (社会福祉学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 『新・初めての社会保障論』、共著、法律文化社、2014年</li> <li>* 『保育者のための子ども家庭福祉』、編著、青山社、2020年</li> <li>* 『NIE社会的養護演習』、共著、大学教育出版、2021年</li> </ul>

③ 教科及び教科の指導法に関する科目

	担当教員	担当科目	学位	研究業績
専任教員	石本 日和子	国語 (書写を含む。)		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照
		国語科指導法		
	北川 健次	社会		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照
		社会科指導法		
	後藤田 洋介	理科		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照
		理科指導法		
	進藤 容子	生活		※②の「大学が独自に設定する科目」欄 参照
	永井 毅	生活		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照
	川中 美津子	子ども生活文化論		※②の「大学が独自に設定する科目」欄 参照
図画工作				
岩口 摂子	音楽		※②の「大学が独自に設定する科目」欄 参照	
前田 雅章	体育		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照	
	体育科指導法			
非常勤講師	辻本 元男	算数		* 主体的な解決力の育成をめざす乗法指導、日本数学教育学会、1988年 * 算数科における主体的解決力の育成指導、日本数学教育学会、1992年 * 論理的な思考力を育てるために、コンピュータはどんな使い方ができるか、日本数学教育学会、1998年
		算数科指導法		
	高田 学	図画工作		※②の「大学が独自に設定する科目」欄 参照
	川嶋 啓子	図画工作		※②の「大学が独自に設定する科目」欄 参照
	杉本 孝美	小学校英語	修士 (国際社会システム)	* 修士論文「小規模特認校における小学校外国語活動の実践及びカリキュラムの研究」ー外国語活動を通してグローバルな視野を育てるー、同志社女子大学大学院国際社会システム学科、pp.157(pp.157)、2015年 * 「グローバルな視点を取り入れた小学校英語の授業」、単著、日本グローバル教育学会学会誌、pp.76-90(pp.115)、2019年 * 「グローバル時代の児童英語教育」、単著、東大阪大学・東大阪大学短期大学部研究紀要、pp.67-74(pp.100)、2020年

非常勤講師	脇本 聡美	外国語(英語)指導法	修士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「公立小学校での英語教育の現状と課題」(単著)、神戸常盤大学紀要第6号、2013年</li> <li>*“The imaginative approach as a conceptual basis for elementary foreign language teacher education”(単著)、神戸常盤大学紀要第9号、2016年</li> <li>*「英語絵本の中の知的道具」(単著)、神戸常盤大学紀要第10号、2017年</li> </ul>	
	田原 英子	家庭	-	*「評価についての課題と工夫」、大阪府高等学校家庭科研究会誌、2005年	
		家庭科指導法			
	上野山 小百合	生活科指導法	※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照		
	山本 真弓	音楽科指導法	修士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『学校における「わらべうた」教育の再創造』、共著、黎明書房、全p.159 pp.50～54、2010年</li> <li>*『これからの中学校音楽ここがポイント』、共著、音楽之友社、全p.175 p.39 pp.132～135、2010年</li> <li>*『河内長野市小中一貫教育 つながりアップ・カリキュラム』、共著、河内長野市教育委員会学校教育課、全p.146 pp.37～43 pp.123～134、2015年</li> <li>*「地域文化としての「地車囃子」とその教育的価値ー「お囃子づくり」の授業実践よりー」『民俗音楽研究』第38号、単著、日本民俗音楽学会、全p.75 pp.21～32、2013年</li> <li>*「学びの共同体としての中学校音楽授業と地域の関係ー郷土の民謡《切り音頭》の授業実践よりー」『民俗音楽研究』第42号、単著、日本民俗音楽学会、全p.103 pp.25～36、2017年</li> <li>*「河内長野市小中一貫教育「ふるさと学」の成果と課題ー地域の郷土芸能を教材とした音楽授業を通してー」『民俗音楽研究』第43号、単著、日本民俗音楽学会、全p.77 pp.13～24、2018年</li> </ul>	
辰巳 三郎	図画工作指導法	学士 (芸術)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『1・2時間でできる図画工作』、共著(編集)、喜楽研、2011年</li> <li>*『1・2時間でできる図画工作パート2』、共著(編集)、喜楽研、2014年</li> <li>*平和美術展出展、神戸会場、2019年、2020年</li> <li>*個展、神戸元町画廊、2017年</li> <li>*個展、加古川市民ギャラリー、2018年</li> <li>*個展、加古川市立松風ギャラリー、2020年</li> </ul>		

## <幼稚園教諭一種免許>

教員養成に係る教員数30名(専任教員15名、非常勤講師15名)

### ① 教育の基礎的理解に関する科目等

	担当教員	担当科目	学位	研究業績
専任教員	後藤田 洋介	教育方法論 (情報通信技術の活用含む)	修士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「陸前高田市文化遺産調査におけるESD教材開発(5)-まちづくりを題材にしたESD-」、奈良教育大学 次世代教員養成センター研究紀要 第2号、2016年</li> <li>*「「持続可能な社会づくり」の構成概念とESDの視点に立った学習指導で重視する能力・態度に関する一考察-実践事例の抽出検討による考察-」、奈良教育大学紀要 第65巻第1号(人文・社会)、2016年</li> <li>*「原子・分子の実在性を考える教材の研究-原子論の歴史を題材に-」、奈良教育大学 次世代教員養成センター研究紀要 第2号、2016年</li> <li>*「ESD子どもキャンプにおける学生の学びの分析-ESDを実践する教員に必要な資質・能力との比較-」奈良教育大学 次世代教員養成センター研究紀要 第4号、2018年</li> <li>*「小学校理科における”日常生活”の取り扱いに関する一考察」、大阪成蹊大学研究紀要 教育学部編 第5号、2019年</li> </ul>
		教育課程論		
		教育実習の指導 (事前事後指導)		
		教育実習 (実地実習)		
	北川 健次	教職論	博士 (臨床教育学)	
		教育実習の指導 (事前事後指導)		
		教育実習 (実地実習)		

専任教員	中村 敏	教育心理学 (子ども)	博士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「2人実験場面での教示と自己教示がスケジュールパフォーマンスに与える影響」『心理学研究』第89巻第4号、2018年</li> <li>*「ルール支配行動を制御する他者の役割: 教示者、観察者、媒介者」『人文研究(大阪市立大学大学院文学研究科紀要)』第70巻、2019年</li> <li>*「社会的影響とルール支配行動—ルール呈示者数がルール性制御に及ぼす影響—」『行動分析学研究』第34巻第1号、2019年</li> <li>*「他者からの教示と他者への教示の行動獲得促進効果—フィードバックの機会のある実験場面での検討—」『行動科学』第61巻第1号、2022年</li> <li>*「言語を介した質の高い幼児教育を目指して—本邦における就学前児童を対象とした応用行動分析的研究のレビュー—」『学校教育学会誌』第25巻、2022年</li> <li>*「地域子育て支援拠点事業の利用状況に関する全国Web調査報告—大学施設利用を中心に—」『神戸学院大学心理学研究』第5巻第1号、2022年</li> </ul>
		子ども理解と相談 援助		
		学校カウンセリング		
	直島 正樹	特別支援教育 (幼・小)	修士 (社会福祉学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『障害児保育の理論と実践—インクルーシブ保育の実現に向けて—』、ミネルヴァ書房、2010年</li> <li>*『保育実践に求められるソーシャルワーク—子どもと保護者のための相談援助・保育相談支援—』、共編著、ミネルヴァ書房、2012年</li> <li>*『障害者への支援と障害者自立支援制度—障害者ソーシャルワークと障害者総合支援法—』、みらい、2013年</li> <li>*『図解で学ぶ保育 社会福祉』、共編著、萌文書林、2015年</li> <li>*『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』、ミネルヴァ書房、2016年</li> <li>*「日本におけるインクルーシブ教育・保育の実現に向けた現状と課題—特別支援教育をめぐる動向を踏まえて—」、『相愛大学研究論集』第34巻別冊、2018年</li> </ul>
	前田 雅章	特別支援教育 (幼・小)	修士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『みんなが輝く体育(3) 小学校中学校 体育の授業』、共著、創文企画、2006年</li> <li>*『日本の踊り 小学校運動会BOOK 演技編』、いかだ社、2009年</li> <li>*修士論文:「障害児体育における運動文化の教材化とその実践についての一考察」、和歌山大学、2011年</li> <li>*「『ともに意味を問い直す』障害児体育とは」、学校体育研究同志会『たのしい体育・スポーツ』、2012年</li> </ul>
		教育実習の指導 (事前事後指導)		
		教育実習 (実地実習)		
教職実践演習 (幼・小)				

専任教員	曲田 映世	教育実習の指導 (事前事後指導)	修士 (学校教育学)	*「実習指導の効果を高める教育方法の研究(その3)―幼稚園・保育所での実習における学生の自己評価と現場評価の比較検討から―」、『相愛大学研究論集』28巻、2012年 *「保育者養成校における歌唱指導に関する研究―裏声を用いた発声を中心として―」、『兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士論文』、2014年 *「保育者養成課程における表現活動の指導方法に関する研究：ICTを活用した授業実践を中心として」、『相愛大学研究論集』第34巻別冊、2018年 *「保育者養成校と実習園との連携に関する基礎的研究」、『相愛大学研究論集』第34巻別冊、2018年
		教育実習 (実地実習)		
	石本 日和子	教育実習の指導 (事前事後指導)	修士 (教育学)	*「教師になったあなたへ！先輩教員からのアドバイス」、『クレスコ』大月書店、2019年 *「子どもの声を聴き、ともに歩む教師に」、『クレスコ』大月書店、2021年 *「子どもの「今、ここ」を寿ぐ学校を」、『教育』教育科学研究会、2020年
		教育実習 (実地実習)		
		教職実践演習 (幼・小)		
	中塚 景子	教育実習の指導 (事前事後指導)	短期 大学士 (保育学)	*「幼稚園における「数量・形」と小学校での「算数」の学びをつなげる幼小連携カリキュラムの開発に関する予備的研究」、甲南女子大学研究紀要 第46号人間科学編、2010年 *「自然や地域社会を学習環境として取り入れた幼児教育実践～幼児の協同する経験と学びの連続性に着目して～」、神戸大学大学院人間発達環境学研究科紀要第4巻第1号、2010年 *「気付きから始まる幼児の遊び～学びのタイムライン～」、芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園研究紀要、2019年 *「あしやの幼児教育(No.1)」、芦屋市立幼稚園教育研究会研究紀要、2020年 *「あしやの幼児教育(No.2)～子どもの気付きからはじまる保育～」、芦屋市立幼稚園教育研究会研究紀要、2021年 *「あしやの幼児教育(No.3)～身近な自然との関わりからはじまる保育～」、芦屋市立幼稚園教育研究会研究紀要、2022年
		教育実習 (実地実習)		
		教職実践演習 (幼・小)		

非常勤講師	弘田 みな子	学校の制度と経営 (幼・小)	修士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「言語と生命—野村芳兵衛の生活綴方実践を手がかりに—」、京都大学教育学研究科紀要論文、2014年</li> <li>*「設定保育における「模倣」に関する考察—幼稚園2歳児クラスの「仏参」の事例をもとに—」、大阪城南女子短期大学紀要論文、2020年</li> </ul>
	近藤 順子	教育原理	修士 (人間科学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『「学び合う場」をデザインする～環境教育から学ぶ10のファシリテーションスキル～』、共著、日中韓環境教育ネットワーク(TEEN)共同プロジェクト委員会、2020年</li> <li>*「The Role of Place-Based Education in Strengthening Community Resilience against Climate Change」、共著、環境教育31巻2号、2021年</li> <li>*「地域に根ざした教育における教育関係者のウェルビーイング— The Southeast Michigan Stewardship Coalition (SEMIS) の事例から —」、ESD研究第5号 vol.5、2022年</li> </ul>
	中井 清津子	教育実習の指導 (事前事後指導)	短期 大学士	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「関係性を創り出す幼児の育成を求めて」、滋賀大学附属幼研究紀要、2007年～2010年</li> <li>*「5歳児後半における「協同して遊ぶ」、初等教育資料867号84頁、東洋出版社、2010年</li> <li>*「障害のある幼児とともに暮らして」、初等教育資料760号、東洋出版文科省、2002年</li> <li>*「LD、ADHD、高機能自閉等の指導(気になる子)の保育と就学支援」、共著、東洋館出版社、2005年</li> <li>*「人間関係の育ちとコミュニケーション力が育つ要因や遊びを考えるプロジェクト」、滋賀大学地域教育連携年報紀要第68号69号70号、2011年～2013年</li> <li>*「指導と評価に活かす記録」幼稚園教育指導資料集第5集、文部科学省、2013年</li> <li>*『あしたの保育が楽しくなる実践事例集 ワクワク！ドキドキ！が生まれる環境構成』、ひかりのくに、2017年</li> </ul>

② 大学が独自に設定する科目

	教員氏名	担当科目	学位	研究業績
専任教員	岩口 摂子	子どものためのピアノ奏法(基礎)	学士 (芸術)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「日本と中国の幼児の歌における旋律比較」日本応用教育心理学会『応用教育心理学研究』第27巻第1号、2010年</li> <li>*「保育者養成における音楽教育の基礎研究4－異文化間における音楽的感性の違いと異文化の音楽教育への応用－」相愛大学人間発達研究所『人間発達学研究』創刊号、2010年</li> <li>*『「新版」ピアノが弾ける3つのステージ ～楽しく無駄なくピアノをマスター～』、東音企画、2011年</li> <li>*『「表現」がみるみる広がる！保育ソング90 ～魔法の伴奏で保育力アップ～』、明治図書、2012年</li> <li>* From student evaluations to teacher performance: a study of piano class instruction, (Music Education Research, Routledge) Vol.14, No.2, 2012.</li> <li>*「保育者・教師養成課程の学生のピアノ練習に関する基礎研究」(『応用教育心理学研究』第31巻第1号)、2014年</li> <li>*「明治の2つの時期の幼児唱歌と現在の幼児の歌における音楽的特徴の統計的検討」『相愛大学研究論集』第33巻、2017年</li> </ul>
		子どものための歌と伴奏		
	後藤田 洋介	ICT活用教育		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照
	曲田 映世	子どもの遊びと文化		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照
保育・教育実践学習				
進藤 容子	子どもの食育	博士 (学術)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『体験・実践・事例に基づく保育内容「環境」－身近な自然・社会とのかかわり－』保育出版社、2008年</li> <li>*『保育内容「環境」論』ミネルヴァ書房、2010年</li> <li>*「保育者養成校学生の理科に対する意識の研究(1)－他の教科との比較検討－」『湊川短期大学紀要』第45集、2009年</li> <li>*「小学校での食育実践における課題－「食べ物を大切に」する視点」からの考察－」『湊川短期大学紀要』第46集、2010年</li> <li>*「子ども発達学科における科目間連携による初年次教育の構築」『相愛大学研究論集』第33巻、2017年</li> <li>*「保育者養成課程における食育実践力向上にむけた取組と保育内容指導力育成－領域「環境」の観点から－」『相愛大学研究論集』第34巻別冊、2018年</li> </ul>	
	世代間交流演習			



専任教員	中塚 景子	世代間交流演習	※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照	
	直島 正樹	保育・教育実践学習	※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照	
	前田 雅章	保育・教育実践学習	※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照	
	永井 毅	保育・教育実践学習	修士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 保育者論 (テキスト)、株式会社 みらい、2017年</li> <li>* 保育内容の指導法(テキスト)、ミネルヴァ出版、2018年</li> <li>* 新・保育と環境 (テキスト)、嵯峨野書院、2019年</li> <li>* 「保育者養成課程の環境演習授業改善の試みー知の協働化を図るICTの活用ー」、『湊川短期大学紀要』、第55巻、pp.1-6、2019年</li> <li>* 「子どもの自然遊びを豊かにする保育実習前授業の改善ー保育にかかわる「虫」を題材とした演習授業に見る学生の意識変化ー」、『保育学研究』、第57巻、pp.90-101、2019年</li> <li>* 「ニュージーランド・オークランドにおける幼児の環境教育の特徴ー幼稚園とプレイセンターの視察をもとにしてー」、『湊川短期大学紀要』、第56巻、pp.10-16、2020年</li> </ul>
	川中 美津子	子ども生活技術演習	博士 (芸術学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「梅田都心における消費者文化の担い手としての3百貨店の役割(1)ーファッション美学的アプローチー」、ファッションビジネス学会論文誌Vol.11、2006年</li> <li>* 「ファッションの大衆化ーユニセックスからゴスロリー」、日本衣服学会誌Vol.54 No.2、2011年</li> <li>* 「『新人類』女性におけるファッション意識と行動に関するー考察ー10年間のライフスタイルの変化を探るー」、ファッションビジネス学会論文誌Vol.16、2011年</li> <li>* 「ファッション美学と感性分類」、感性工学第11巻4号、2013年</li> </ul>
		子ども生活文化演習		
益田 圭	人権教育	修士 (人間・環境学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 『人権年鑑(旧『部落解放・人権年鑑』)』共著、解放出版社、1999年～2013年まで毎年執筆</li> <li>* 「被差別部落をめぐる周辺住民の常識的知識と実践的推論」、実験社会心理学研究36巻1号 68-78頁、1999年</li> <li>* 「差別に関わる心理的メカニズム」、部落解放研究135号79-88頁、2000年</li> <li>* 「被差別部落に関する意識と人権感覚の形成過程」、部落解放研究156号2-15頁、2004年</li> <li>* 「行政職員対象の人権意識調査の現状と課題」、部落解放研究162号16-23頁、2005年</li> </ul>	
沼田 潤	異文化間教育論	博士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「ネガティブなイメージを持たれている外国に対する偏見を低減する写真提示の効果」、人間環境学研究会「人間環境学研究」9巻2号、2011年</li> <li>* 「日本人大学生における異文化理解の現状」、人間環境学研究会「人間環境学研究」10巻2号、2012年</li> <li>* 「Effects of a letter-writing task on empathy toward Japanese- Brazilians as out-group members: An educational method for intercultural understanding in universities and colleges」、『Psychologia』Vol.56、2013年</li> <li>* 『Effective Methods for Intercultural Education』、ユニオンプレス、2021年</li> </ul>	

非常勤講師	大橋 邦康	子どものための ピアノ奏法(基礎)	学士 (音楽)	* ベートーヴェンピアノソナタ全曲リサイタル、寝屋川市サモックホール、2007年より2016年迄10回シリーズ * ゆかりコンサート、フルーティスト福谷 一美氏とのデュオコンサート、寝屋川サモックホール、2016年 * 「情熱と律動 クロイツェル・ツィガーヌ」 ヴァイオリニスト金関環氏とのデュオコンサート、埼玉県宮代町進修館及び東京文京区ラ・リール、2016年
		子どものための歌 と伴奏		
	横山 由美子	子どものための ピアノ奏法(基礎)	学士 (音楽)	* 保育者養成における音楽教育の基礎研究3-学生によるピアノの授業評価の分析-、相愛大学研究論集第25巻、2009年 * 保育者養成における音楽教育の基礎研究4-異文化間における音楽的感性の違いと異文化の音楽教育への応用-、相愛大学人間発達学研究創刊号、2010年 * 「表現」がみるみる広がる！保育ソング90～魔法の伴奏で保育力アップ～、明治図書、2012年
		子どものための歌 と伴奏		
	西村 優子	子どものための ピアノ奏法(基礎)	芸術 学士	* ブルガリア国立トルブーヒン室内オーケストラ演奏会、協奏曲独奏、1988年 * 堺フロイデ合唱団夏のコンサート、協奏曲独奏、1990年 * 木管五重奏とピアノの調べ、独奏室内楽、2012年
	河瀬 里子	子どものための歌 と伴奏		* 「ピアノ作品集としてのクルターク《遊び》——「伝統」との関わりを中心に」、神戸大学大学院修士論文、2005年 * 「ジェルジィ・クルターク《遊び》にみる古典への意識」、公益財団法人日本ピアノ教育連盟紀要第25号、2009年 * Homage a Poulenc、兵庫県立西宮芸術文化センター神戸女学院小ホール、2013年
塩田 桃子	子どもとリズム	修士 (福祉社会学)	* 『オンライン授業に対応 乳幼児の健康<改訂版>』、[監修]宮下恭子、[編著]茗井香保里・平山素子・山西加織 [著]9名、大学図書出版、2023年 * 『オンライン授業に対応 乳幼児・児童の運動あそびと表現あそび』、茗井香保里・宮下恭子 他12名、大学図書出版、2022年 * 「コロナ禍における運動あそびの模擬保育による教育効果と今後の課題-学生の振り返りアンケートの結果と省察レポートから」、共著、大阪成蹊短期大学 大阪成蹊短期大学研究紀要第19号、pp.71-82、2022年 * 『新みんなが輝く体育④幼児期運動あそびの進め方』、口野隆史他9名、創文企画、2021年 * 「保育者養成校における民舞『荒馬』に関する一考察—領域「表現」の指導及び教育方法論との関連に着目して—」共著、大阪健康福祉短期大学 創発(大阪健康福祉短期大学紀要)第9号、pp.17-31、2020年 * 「運動遊びや表現遊びの模擬保育の実践と省察—学生の学びの分析—」、共著、大阪成蹊系大学・大阪成蹊短期大学 大阪成蹊教職研究(大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学紀要)第2号、pp.83-92、2020年	

非常勤講師	高田 学	造形実習	学士 (芸術学)	* 第30回秋季創画展入選、東京都美術館・京都市美術館、2003年 * 第31回秋季創画展奨励賞、東京都美術館・京都市美術館、2004年 * 第32回秋季創画展入選、東京都美術館・京都市美術館、2005年
		子どもと造形表現		
	川嶋 啓子	造形実習	学士 (文学)	* 「日本の伝統職人芸とNUNO」21/21須藤玲子の世界とNUNO展カタログ(共著)、2005年 * 「Japanese Textile」TEXTILE05展カタログ(共著)、2005年 * 「International Tapestry/ORI RHYTHM I II」ORI RHYTHM展カタログ(共著)、2012年 * 「FROM TAPESTRY TO FIBER ART "THE LAUSANNE BIENNIALS 1962-1995"」(共著) 発行 FOUNDATION TOMS PAULI, SWISS 2017年 * 「DEEP RIVERS FLOW SILENTLY " Exhibition of Contemporary Japanese and Lithuanian Textile"」展カタログ(共著) 発行 KAUNAS BIENNAL, LITHUANIA 2019年
		子どもと造形表現		
	中川 陽子	人権教育	修士 (社会福祉学)	* 『新・初めての社会保障論』、共著、法律文化社、2014年 * 『保育者のための子ども家庭福祉』、編著、青山社、2020年 * 『NIE社会的養護演習』、共著、大学教育出版、2021年

③ 領域及び保育内容の指導法に関する科目

	教員氏名	担当科目	学位	研究業績
専任教員	中塚 景子	子どもと人間関係		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照
		保育内容 人間関係		
	進藤 容子	子どもと環境		※②の「大学が独自に設定する科目」欄 参照
	永井 毅	保育内容総合		※②の「大学が独自に設定する科目」欄 参照
		保育内容環境		
	岩口 摂子	保育内容 総合表現A		※②の「大学が独自に設定する科目」欄 参照
	川中 美津子	子どもと表現		※②の「大学が独自に設定する科目」欄 参照
		保育内容 総合表現B		
曲田 映世	子どもと表現		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照	
	松島 京	保育内容総合	博士 (社会学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「学校と家庭内暴力ー被害を受けた子どもへの対応: 児童虐待とドメスティック・バイオレンスを中心にー」、『近大姫路大学教育学部紀要』、2010年</li> <li>*『家庭支援論』、近大姫路大学教育学部通信教育課程、2011年</li> <li>*『児童家庭福祉』、共著、近大姫路大学教育学部通信教育課程、2011年</li> <li>*「外国につながるのある子どもの教育と保育をめぐる課題」『近大姫路大学教育学部紀要』、共著、2013年</li> <li>*『保育者の専門性についての調査ー養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上のための取り組みー』、共著、全国保育士養成協議会、2013年</li> <li>*「保育者の専門性についての調査ー養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上のための取り組みー(第2報)」、共著、全国保育士養成協議会、2014年</li> </ul>
非常勤講師	矢野 永吏子	子どもと健康	修士 (文学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『ICTの活用から考える「幼児体育」での模擬保育と学生の共同と能動的に学ぶ姿勢の育成について』、単著、教育思想・教授法年報第3号、2019年</li> <li>*『保育従事者の学びの連続性と資質向上につながる保育者養成課程での学び～子育て支援事業への関わりと学びの効果～』、共著、大谷大学短期大学部幼児教育保育科学研究年報第21号、2020年</li> <li>*『園児と学生の運動遊びの連携交流授業の枠組みー領域「健康」を中心とした保育内容に対する総合的な理解を促すためにー』、共著、教育思想・教授法年報第4号、2020年</li> </ul>
		保育内容健康		

非常勤講師	花房 ナオミ	子どもと言葉	修士 (心理 教育学)	*『「保育原理」保育の本質を探し求めて』、あいり出版、2013年 *『「乳児保育」一人ひとりの乳児期の育ちを支えるために』、あいり出版、2013年
		保育内容言葉		
	小西 智咲子	保育内容 総合表現A	修士 (文学)	* 修士論文: Interaction between reflex and voluntary response from the viewpoint of stimulus anticipation in the stretch reflex、1987年 * 「自律神経・パフォーマンス・覚醒度・主観評価の日内変動および摂食の影響」、共著、第8回生体・生理工学シンポジウム論文集、113-117、1993年 * 「身体表現をたのしむあそび作品集」、かもがわ出版、2018年 * 「学士基幹教育科目『運動と健康』の履修状況と学生の到達度評価からみた授業の評価」、大阪樟蔭女子大学研究紀要、2019年
杉本 孝美	保育内容 総合表現B	修士 (国際社会 システム)	* 「新しい時代の保育者養成校における授業提案と課題の検討」、単著、乳幼児教育・保育者養成学会発表抄録、p.37(pp.37)、2020年 * 「ESDの視点に立った保育活動における体験を表現へ」、単著、日本EDS学会発表抄録、p.22(pp.32)、2021年	

## < 栄養教諭免許 >

教員養成に係る教員数13名(専任教員4名、非常勤講師9名)

### ① 教育の基礎的理解に関する科目等

	教員氏名	担当科目	学位	研究業績
専任教員	長谷川 精一	教育原論	博士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『森有礼における国民的主体の創出』、思文閣出版、2007年</li> <li>*『考えを深めるための教育原理』、ミネルヴァ書房、2019年</li> <li>*「沖縄言語論争」再考」(『知の伝達メディアの歴史研究—教育像の再構築—』)、思文閣出版、2009年</li> <li>*「福沢諭吉における兵役の「平等」—徴兵論と兵役のがれの間」(『明治国家の精神史的研究』)、以文社、2007年</li> <li>*「森有礼」、「福沢諭吉」(『人物で見る日本の教育』)、ミネルヴァ書房、2011年</li> <li>*「言語教育と地域語との関係に関する比較史的考察」、相愛大学研究論集31巻、2015年</li> </ul>
		教育史		
		教職入門		
	沼田 潤	教育の方法と技術 (情報通信技術の活用含む)	博士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「ネガティブなイメージを持たれている外国に対する偏見を低減する写真提示の効果」、人間環境学研究会「人間環境学研究」9巻2号、2011年</li> <li>*「日本人大学生における異文化理解の現状」、人間環境学研究会「人間環境学研究」10巻2号、2012年</li> <li>*「Effects of a letter-writing task on empathy toward Japanese- Brazilians as out-group members: An educational method for intercultural understanding in universities and colleges」、『Psychologia』Vol.56、2013年</li> <li>*『Effective Methods for Intercultural Education』、ユニオンプレス、2021年</li> </ul>
石本 日和子	生徒指導論	修士 (教育学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「人間になること」—「社会的虐待からの回復」、『教育』、P.43~P.52、2019年</li> <li>*「子どもを寿ぐ学校を」、『コロナ時代の教師の仕事』、教育科学研究会編、P.13~P.21、2020年</li> <li>*「不自由な言葉を実らせるまで」、『教育』、P.90~P.95第2特集、2021年</li> </ul>	
小野 くに子	栄養教育実習	博士 (環境人間学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 小学生の咀嚼力と食習慣および体力測定値との関連、共著、日本食育学会、第11巻、第2号、2017年</li> <li>* 弁当づくりを題材とした主食・主菜・副菜の学習にみる小学6年生の実態、共著、日本食育学会、第11巻、第3号、2017年</li> <li>* 親子調理方式を取り入れた小・中学校の給食の食べ残しと生活要因との関連、共著、日本食育学会、第13巻、第4号、2019年</li> <li>* 中学校給食の牛乳の飲み残しと生活要因との関連、共著、日本食育学会、第14巻、第4号、2020年</li> <li>* 小・中学生における家庭での食事での食教育と生活要因との関連、日本食育学会誌、第1巻、第1号、2023年</li> </ul>	
	教職実践演習 (栄養教諭)			

非常勤講師	森本 宏美	栄養教育実習	学士 (生活科学)	* 教育方法の実践例として、給食を生きた教材とする食育実践(2008年～)、中学校区共通給食目標作成(2016年～) * 職員向け食育指導資料の作成、2008年～ * 和泉市学校保健研究協議会食育実践発表、2011年
		教職実践演習 (栄養教諭)		
	高橋 みづき	学校の制度と経営	修士 (教育学)	* 米国都市部における教員確保を目指した新たな養成システムの意義ー若年教員志望者の主体的な意味構成への作用に着目してー、関西教育学会紀要、15、1-16、2015年 * 日本の教育制度と教育行政(英語版)、共著、東信堂、2018年
	弘田 みな子	学校の制度と経営	修士 (教育学)	* 「言語と生命ー野村芳兵衛の生活綴方実践を手がかりにー」、京都大学教育学研究科紀要論文、2014年 * 「設定保育における「模倣」に関する考察ー幼稚園2歳児クラスの「仏参」の事例をもとにー」、大阪城南女子短期大学紀要論文、2020年
	閻 琳	教育心理学	博士 (文学)	* 「在日外国人留学生を対象としたアルバイト動機づけ尺度の作成」、日本パーソナリティ心理学会『パーソナリティ研究』26巻2号、2017年 * 「在日外国人留学生のアルバイト職務満足感ー自己決定理論に基づく検討」、日本心理学会『心理学研究』90巻2号、2019年
	池本真知子	教育心理学	博士 (文学)	* 博士論文:「声質における感情認知の研究」、2010年 * コラム5-1:声はごまかせない:感情の音声知覚、青山健二郎・神山貴弥・武藤崇・畑敏道(編)、心理学概論[第2版] pp.117 ナカニシヤ出版、2014年 * Cultural Influences on the Structure of Emotion :An Investigation of Emotional Situations Described by Individuals from Cambodia,Japan,UK and US、International Journal of Applied Psychology、6、20-26、2016年 * Voice quality perception from emotional voices: Comparison of emotional utterances in English and Japanese、Applied human informatics (AHI)、1、1-17、2019年
	藤原 彰子	特別支援教育	教育学士	* 『特別支援教育の工夫と実践ーインクルーシブ教育システムの推進のためにー』、共著、株式会社ジース教育新社、2019年 * 『特別支援学校学習指導要領解説 総則等編』、共著、文部科学省、2009年

非常勤講師	児玉 祥一	教育課程の意義と編成	教育学修士	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『考えを深めるための教育課程』教育課程についての考えを深めるために(2)教育課程の変遷—教科課程の時代を中心に、共著、ミネルヴァ書房、2023年</li> <li>*「求められる教師と理想の教師像—同志社・京都教育大学教職大学院での教職の授業を通して—、同志社大学教職課程年報第5号、2015年</li> <li>*「新科目「歴史総合」における大項目「近代化と私たち」の教材開発に向けて—地域教材から幕末・開港期の日仏交流を探る—」、共著、同志社大学教職課程年報第11号、2022年</li> </ul>
	倉本 香	道徳教育論	博士(哲学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*『近代倫理思想の世界』、共著、晃洋書房、1998年</li> <li>*『道徳性の逆説—カントにおける最高善の可能性—』、晃洋書房、2004年</li> <li>*『倫理のノート』、共著、萌書房、2015年</li> </ul>
	吉田 卓司	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	修士(法学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>*「新版教職入門生徒指導法を学ぶ」、三学出版、2008年</li> <li>*「生徒指導法の実践研究—生徒指導と教職教育の新戦略」、三学出版、2008年</li> <li>*「教育方法原論 - アクティブラーニングの実践研究」、三学出版、2013年</li> <li>*「教育実践基礎論 - アクティブラーニングで学ぶ」、三学出版、2018年</li> </ul>
教育相談				

② 栄養に係る教育に関する科目

	教員氏名	担当科目	学位	研究業績
専任教員	小野 くに子	学校栄養教育論 A・B		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照
非常勤講師	森本 宏美	学校栄養教育論 A・B		※①の「教育の基礎的理解に関する科目等」欄 参照



### 3-① 教員の養成に係る授業科目 一覧

#### ◆ 中学校一種免／高校一種免／栄養教諭一種免

○ 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 ○=必修 △=選択必修

科目区分	授業科目名	中学校一種免	高校一種免	栄養教諭一種免
日本国憲法	日本国憲法	○	○	○
体育	健康科学	○	○	○
	健康とスポーツ実技	○	○	○
	生涯健康とスポーツ実技			
外国語 コミュニケーション	英会話Ⅰ、Ⅱ	△	△	△
	英語Ⅰ、Ⅱ	△	△	△
	ドイツ語Ⅰ、Ⅱ	△	△	△
	イタリア語Ⅰ、Ⅱ	△	△	△
	フランス語Ⅰ、Ⅱ	△	△	△
	中国語Ⅰ、Ⅱ	△	△	△
情報機器の操作	情報処理演習A、B	△	△	△

○ 教育の基礎的理解に関する科目等 ○=必修

科目区分	授業科目名	中学校一種免	高校一種免	栄養教諭一種免
教育の基礎的理解に関する科目	教育原論	○	○	○
	教育史			
	教職入門	○	○	○
	学校の制度と経営	○	○	○
	教育心理学	○	○	○
	特別支援教育	○	○	○
	教育課程の意義と編成	○	○	○
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育論	○		○
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	○	○	○
	教育の方法と技術 (情報通信技術の活用含む)	○	○	○
	生徒・進路指導論	○	○	
	生徒指導論			○
	教育相談	○	○	○
教育実践に関する科目	教育実習1(事前事後指導)	○	○	
	教育実習2(実地実習)	○	○	
	教育実習3(実地実習)	○		
	栄養教育実習			○
	教職実践演習(中・高)	○	○	
	教職実践演習(栄養教諭)			○

○ 大学が独自に設定する科目 ○=必修

科目区分	授業科目名	中学一種免許状	高校一種免許状
大学が独自に設定する科目	人権教育	○	○
	介護体験	○	
	異文化間教育論		
	道徳教育論		

○ 教科及び教科の指導法に関する科目 ○=必修 △=選択必修

《中学・高校一種免【音楽】》 音楽学部音楽学科

① 【演奏コース 声楽専攻、ピアノ専攻、創作演奏専攻、オルガン専攻、管弦打楽器専攻、古楽器専攻生】

科目区分	授業科目名	声楽		ピアノ		創作演奏		オルガン		管弦打楽器		古楽器	
		中学	高校	中学	高校	中学	高校	中学	高校	中学	高校	中学	高校
教科に関する 専門的事項	ソルフェージュⅠ～Ⅳ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	専攻実技Ⅰ～Ⅳ(声楽)	○	○	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	副科声楽Ⅰ	/	/	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	合唱Ⅰ、Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	近世歌謡	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	常磐津Ⅰ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	専攻実技Ⅰ～Ⅳ(ピアノ)	/	/	○	○	/	/	/	/	/	/	/	/
	副科ピアノⅠ・Ⅱ	○	○	/	/	/	/	/	○	○	○	○	/
	副科実技Ⅰ・Ⅱ	/	/	/	/	○	○	/	/	/	/	/	/
	鍵盤実技Ⅰ・Ⅱ	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	○	○
	専攻実技Ⅰ～Ⅳ(創作演奏)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	専攻実技Ⅰ～Ⅳ(オルガン)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	専攻実技Ⅰ～Ⅳ(管弦打楽器)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	専攻実技Ⅰ～Ⅳ(古楽器)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	伴奏法演習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	伴奏法Ⅰ、Ⅱ	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	アンサンブル演習ⅠA～ⅡB	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	オーケストラA、B	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	器楽合奏	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	雅楽Ⅰ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	地歌・箏曲Ⅰ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	指揮法Ⅰ・Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	和声法演習Ⅰ～Ⅳ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	管弦楽概説	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	楽式論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西洋音楽史 (中世・ルネッサンス・バロック)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西洋音楽史 (古典派・ロマン派)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日本音楽史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
諸民族の音楽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	音楽科教育法A～D	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

②【音楽文化創造コース 作曲専攻、音楽学・音楽療法・アートプロデュース専攻生】

③【特別演奏コース 声楽専攻、ピアノ専攻、管弦打楽器専攻生】

科目区分	授業科目名	②音楽文化創造コース				③ 特別演奏コース					
		作曲		音楽学等		声楽		ピアノ		管弦打楽器	
		中学	高校	中学	高校	中学	高校	中学	高校	中学	高校
教科に関する 専門的事項	ソルフェージュⅠ～Ⅳ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	専攻実技Ⅰ～Ⅳ(声楽)	/	/	/	/	○	○	/	/	/	/
	副科声楽Ⅰ	○	○	○	○	/	/	○	○	○	○
	合唱Ⅰ、Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	近世歌謡	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	常磐津Ⅰ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	専攻実技Ⅰ～Ⅳ(ピアノ)	/	/	/	/	/	/	○	○	/	/
	副科ピアノⅠ・Ⅱ	○	○	○	○	○	○	/	/	○	○
	専攻実技Ⅰ～Ⅳ(管弦打楽器)	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	伴奏法演習	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	オーケストラA、B	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	器楽合奏	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	雅楽Ⅰ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	地歌・箏曲Ⅰ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	指揮法Ⅰ・Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	和声法演習Ⅰ～Ⅳ	/	/	○	○	○	○	○	○	○	○
	作曲実技Ⅰ～Ⅳ	○	○	/	/	/	/	/	/	/	/
	管弦楽概説	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	楽式論	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西洋音楽史 (中世・ルネッサンス・バロック)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	西洋音楽史 (古典派・ロマン派)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本音楽史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
諸民族の音楽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	音楽科教育法A～D	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

《中学・高校一種免【国語】》 人文学部人文学科日本文学コース

科目区分	授業科目名	中学	高校
教科に関する専門的事項	国語学概論	○	○
	言語学概論	○	○
	国語表現法	○	○
	国語学演習A、B		△
	日本文学概論	○	○
	日本古典文学史	○	○
	日本近代文学史	○	○
	日本文学入門1、2		△
	日本文化特殊講義(日本文学)		△
	文化資料論A(日本文学)、B(日本文学)		△
	漢文学	○	○
	漢文学講読A	○	○
	漢文学講読B		△
	漢文学史A	○	○
	漢文学史B		△
書道A、B	○		
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	国語科教育法A～D	○	○

《中学・高校一種免【宗教】》 人文学部人文学科仏教文化コース

科目区分	授業科目名	中学	高校
教科に関する専門的事項	宗教学概論A、B	○	○
	仏教学概論A、B	△	△
	真宗学概論	△	△
	宗教社会学	△	△
	比較宗教学	△	△
	宗教心理学	△	△
	宗教社会活動論	△	△
	宗教史	○	○
	仏教史	△	△
	真宗史	△	△
	日本仏教史A、B	△	△
	哲学概論	○	○
	宗教哲学	○	○
	真宗聖典学	△	△
	仏教思想論	△	△
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	宗教科教育法A～D	○	○

○ 栄養に係る教育に関する科目 ○=必修

《栄養教諭一種免》 人間発達学部管理栄養学科

科目区分	授業科目名	栄養教諭一種免許状
・栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ・幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項 ・食生活に関する歴史的及び文化的事項	学校栄養教育論A	○
・食に関する指導の方法に関する事項	学校栄養教育論B	○

◆ 幼稚園一種免／小学校一種免

○ 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 ○=必修 △=選択必修

科目区分	授業科目名	幼稚園一種免	小学校一種免
日本国憲法	日本国憲法	○	○
体育	健康科学	○	○
	健康とスポーツ実技	○	○
	生涯健康とスポーツ実技		
外国語 コミュニケーション	英会話Ⅰ、Ⅱ	△	△
	英語Ⅰ、Ⅱ	△	△
	ドイツ語Ⅰ、Ⅱ	△	△
	イタリア語Ⅰ、Ⅱ	△	△
	フランス語Ⅰ、Ⅱ	△	△
	中国語Ⅰ、Ⅱ	△	△
情報機器の操作	情報処理演習A、B	△	△

○ 教育の基礎的理解に関する科目等 ○=必修 △=選択必修

科目区分	授業科目名	幼稚園一種免	小学校一種免
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	○	○
	教職論	○	○
	学校の制度と経営(幼・小)	○	○
	教育心理学(子ども)	○	○
	特別支援教育(幼・小)	○	○
	教育課程論	○	○
道徳、総合的な学習の時間等の 指導法及び生徒指導、教育相談 等に関する科目	教育方法論(情報通信技術の活用含む)	○	○
	子ども理解と相談援助	○	
	道徳教育の理論と実践		○
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法(小)		○
	生徒・進路指導の理論と方法		○
	学校カウンセリング	△	○
教育実践に関する科目	教育実習の指導(事前事後指導)	○	○
	教育実習(実地実習)	○	○
	教職実践演習(幼・小)	○	○

○ 大学が独自に設定する科目 ○=必修 △=選択必修

科目区分	授業科目名	幼稚園一種免	小学校一種免
大学が独自に設定する科目	子どものためのピアノ奏法(基礎)	○	○
	ICT活用教育	△	
	世代間交流演習	△	
	造形実習	△	
	子どもの遊びと文化	△	
	子どもの食育	△	
	保育・教育実践学習	△	
	人権教育	△	
	異文化間教育論	△	
	子ども生活技術演習	△	
	子どもと造形表現	△	
	子どものための歌と伴奏	△	
	子どもとリズム	△	
	子ども生活文化演習	△	

○ 領域及び保育内容の指導法に関する科目(幼一種免) ○=必修

科目区分	授業科目名	幼稚園一種免
領域および保育内容の指導法に関する科目	子どもと健康	○
	子どもと人間関係	○
	子どもと環境	○
	子どもと言葉	○
	子どもと表現	○
	保育内容総合	○
	保育内容健康	○
	保育内容人間関係	○
	保育内容環境	○
	保育内容言葉	○
	保育内容総合表現A、B	○

○ 教科及び教科の指導法に関する科目(小一種免) ○=必修 △=選択必修

科目区分	授業科目名	小学校一種免
教科及び教科の指導法に関する科目	国語(書写を含む。)	○
	社会	○
	算数	○
	理科	○
	生活	○
	子ども生活文化論	
	音楽	△
	図画工作	△
	家庭	△
	体育	△
	小学校英語	△
	国語科指導法	○
	社会科指導法	○
	算数科指導法	○
	理科指導法	○
	生活科指導法	○
	音楽科指導法	○
	図画工作指導法	○
	家庭科指導法	○
	体育科指導法	○
	外国語(英語)指導法	○

◆ 中学校専修免／高校専修免【音楽】

○ 大学が独自に設定する科目 ○=必修 △=選択必修

① 音楽専攻科 声楽専攻 ②音楽専攻科 器楽専攻 ③音楽専攻科 作曲専攻

科目区分	授業科目名	声楽専攻		器楽専攻		作曲専攻	
		中学	高校	中学	高校	中学	高校
教科及び教科の指導法に関する専門的事項	専攻実技A、B	○	○	○	○	△	△
	音楽学演習A、B	/	/	/	/	△	△
	音楽療法演習A、B	/	/	/	/	△	△
	作品研究	△	△	△	△	△	△
	演奏解釈	△	△	△	△	△	△
	音楽療法事例研究	/	/	/	/	△	△
	西洋音楽史特殊講義A～D	△	△	△	△	△	△
教育実践に関する科目	教職特別演習A、B	○	○	○	○	○	○